

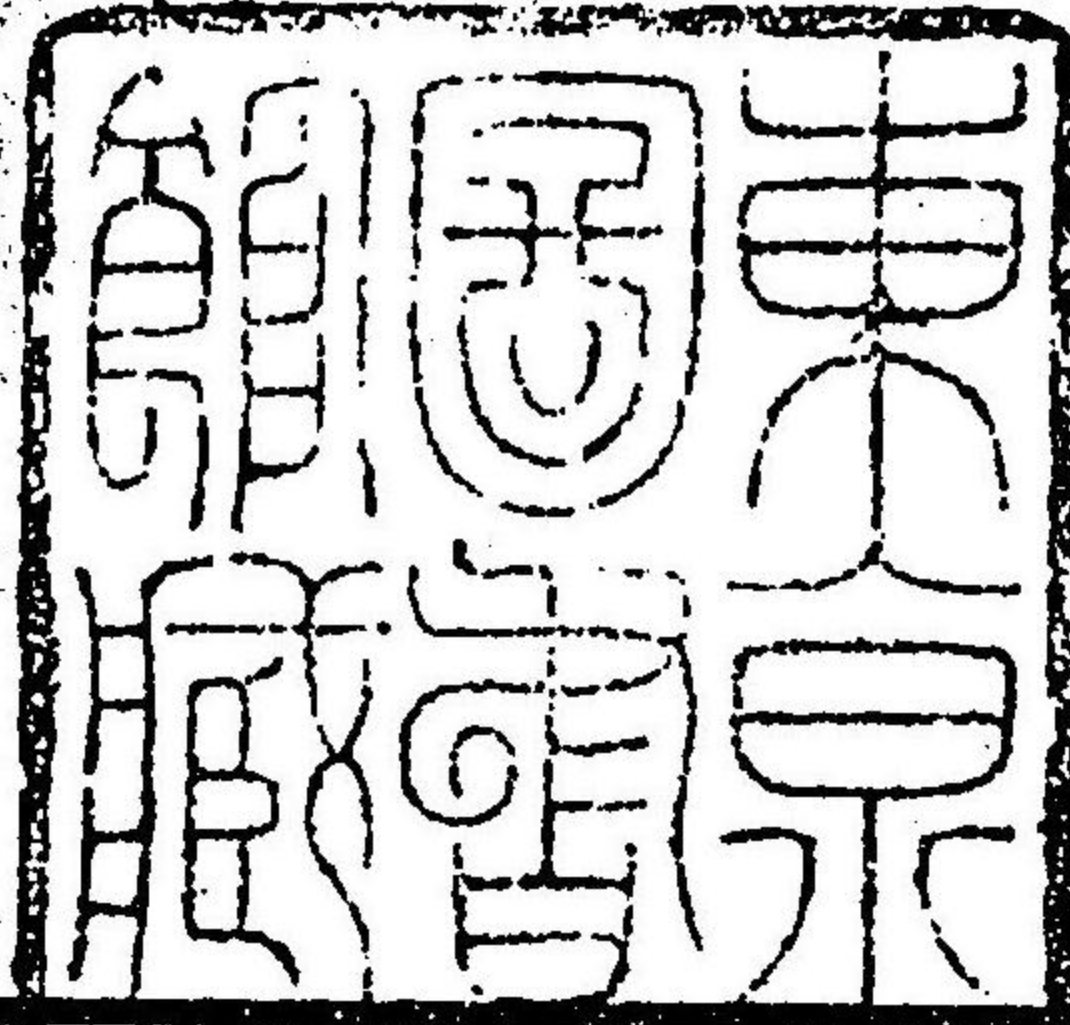
8
166

東 京 國 立 大 學				
二	一	六	八	
冊	六	架	函	類
	号			

才

志 雙 語 附 錄
上





志斐語附録序

薦枕高天乃神王廼御造化之隨天

傳日迹副理萬乃物學問之道、波

毛弥榮衣二佐迦延弥開氣耳比良

計豆阿那淤牟伽斯能足御世刀成

来奴礼杼三粟之中尔方蟹我往横

左之道仁伊由幾那豆美氏靈幸惟
神南留事乃意乎知射流人毛阿礼
婆我矢野之大人伊其袁志毛悲味
歎比帝荒玉乃年麻年玖燒太刀廼
利心振起志奴婆珠能夜中曉時止
休不事無久勤米伊蘇之美坐而飛

鳥之既久豫利兩間迹所著哆流書
知不書方斯母百卷千卷斗多可留
中耳玉乃小琴能殊尔面白玖青柳
之系乃甚毛讀得易久悟得易幾書
皤志斐語乃是附録仁奈毛有家類
蘇：母：此書者世尔所謂穀反謠

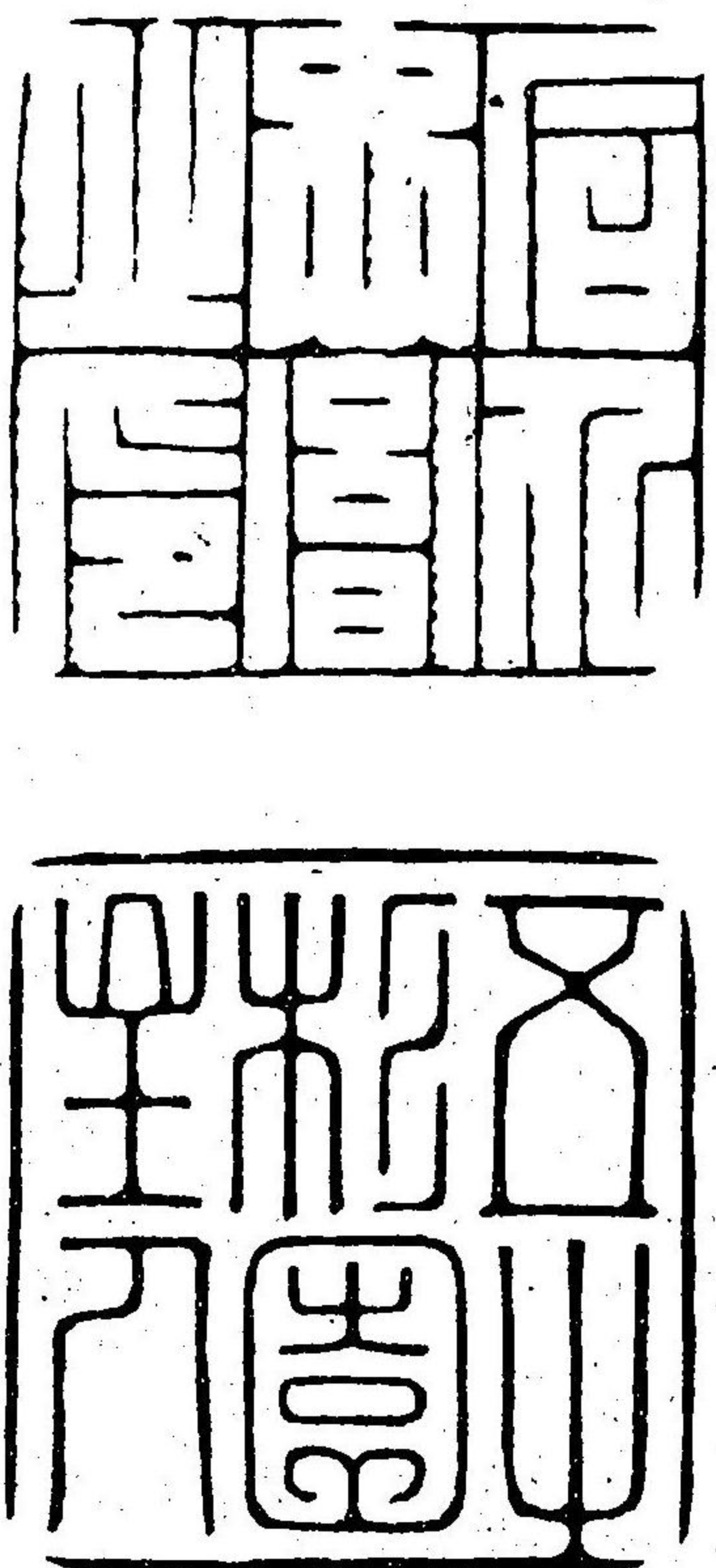
知布物遠チ フ モ ノ ヲ ミツカフツクリイデ自作出給比低其條タマヒ テ ソノ ヲチクノ乃
 下尔久方能天皇祖神等乃傳遍賜シモ ニ ヒサ カタノ アツミ オヤガミ タチノ ツタヘタマ
 比教閑賜幣ヒ ラシヘタマヘル琉道能大旨乎之巨勢ミチノ オホハネヲ シコセ
 山之列ヤマノ ツラク椿都ツバキツ婆バラ良ラ尔被註トキアカ
 釋多連婆玉サエ タレバ捍之道能本都奥所表タマボコノ ミチノ モトツ オクカヲ
 真澄乃鏡真明介久今廼現尔見峨マ スミノ カミマ サヤケ クイマノ ヲツニミルガ

如聞賀如南毛有累追次而何耶久ゴト キクガゴト ナモ アル オヒスガヒテ ナニヤク
 禮耶乃書能中與理我人乃鑑斗成レ ヤノ フミノ ナカヨリ ワレヒトノ ガミトナル
 倍积吳機織阿夜迹貴玖奇幾珍伎ベ キクレハトリ アヤニ タフトク クスシキ ヲツラレキ
 物語乎佐閑尔取出給比天足引之モノガトリヲ サヘニ トリイデタマヒテ アシヒキノ
 山管乃根能懇切尔說教幣解示左ヤマスガノ ネノ ネモコロニ トキヲシヘトキシメサ
 延陀流味酒乃宇麻伎書尔之在連エタル ウマサケノ ウルマキフミニシアレ

婆バ虛ウツ蟬セミ乃ノ世ヨ耳ニ在ア里リ不フル留ル並ナ乃ノ書フミ
刀ト那ナ思オモ比ヒ違タガ閑ヘ曾ソ祢ネ如カ斯ク帝テ從イマ今ヨリ以ノ
後チ此コノ書フミ乎ヲ倭シ女ヅ手タ纏マキ操クリ返カヘ志シ見ミ武ム人ヒト
等タチ蟠ハ志シ毛モ不イ湏ナ醜シ目コ志シ許コ米ノ伎キ汚キ穢タナ
幾キ道ミチ乃ノ醜シ道ミチ你ニ伊イ行ユキ左サ迷マヨ布フ事コト無ナ久ク
飛ヒ驒ダ人ビト乃ノ打ウツ墨スミ繩ナハ能ノ一ヒト筋スガ尔ニ神カミ仁ニ君キミ

二ニ親オヤ迹ニ忠マン實ク志シ玖ク睦ムツ備ビ仕ツカ不フ流ル善ウマ人ビト
斗ト許コ蘇ソ成ナル倍ベ計ケ例レ阿ア那ナ於オ茂モ志シ呂ロ阿ア
那ナ多タ能ノ志シ阿ア波ハ礼レ是コレ乃ノ書フミ與ヨ玉タマ乃ノ緒ヲ
迺ノ永ナガ代キ乃ヨ寶タカラ登ト毛モ云イハ邪ガ良ラ米ノ夜ヤ蟠ハ御ミ
世ヨ乃ノ名ナ乎ヲ明ト治マ斗マ彌ラ須ス十ト年ト迺セ十ノ二
月ハ二ツ十カ日バ婆カ可カリ里ヲ乎ガ遲ナ奈ク玖ハ波ア安レ礼

打ド自ミツタラ筆フデ執トリ而テ鳩ニホ鳥ドリ奈ナ須ス頸ウナ根ネ衝ツキ拔ヌキ互テ
 恐カシコ美ミ恐カシコ美ミ毛モ記シル寸ス百モ不タ足ラ五ズ十イ杉スギ園ノソノ
 阿ア呂ロ自ジ權ジ大ジ講ジ義ジ石ジ丸ジ忠ジ胤ジ



志斐語附錄上之卷

平朝臣玄道記

此きいまごした。おらえらるどもれ爲小。世よかた奇謠ウタを
 いふ物小。形らひと物し物系を。或人の見て。いので釋トク放ハク
 もとそ、おのほよ。かの志ひのこの事を思ひ放と。志どを
 れを事をら。加い物き往て。のくおちたく成小と放。見む
 人まおその心志たまひてせぞ。

○ひとね

ひと、うまれで。おこからは。
 おまのみちねぞ。おるのふと。

天地アマツチの際アヘ小チき万物マンブツとて。土石ツツシ類ルイ。草木ソウボク類ルイ。虫魚ムシイサ類ルイ。鳥獸チウブツ類ルイ。など。數スウ百萬マンマン種シュ多タの族シユ中チュウにめ。殊シツ更シ人ニヒトを靈物レイブツと稱ナヅケひて。僅ワザ六尺ロクシツ左右バカリ體カフ小チ。天地アマツチを相アヒ并ナラびて。神代カミヨとゆふと小チ万物マンブツは靈長レイチヤウと名ナ小チ負オふ事コトハ專モトメその天地アマツチ万物マンブツをも。御造ミツクリ化遊カユだされし。いぞめ尊タマシ皇祖ミコヤノアノミカミ天神アメノカミの御上ミカミ小チ。恐カレコくめそれ身體カラ靈魂レイコンをぞめよ。能ヨク肯アヘて生成アヘナさし免マナシ給タマフひ。此コノ身體カラめ甚イトクシ奇妙キウミョウなる物モノ小チ。本性ホノサマは神カミれども。又マタ靈魂レイコンも更シ小チ立勝タテマシて。靈妙レイミョウある物モノ小チ。本性ホノサマは神カミ隨ナラ小チ丹心ニシとて。至善シツゼンの魂神タマシ靈智レイチ慈仁ジジンなど徳トクを悉備シツビ有アルて。此コノとゆふ君臣キミシ父子フシ夫婦フウフ兄弟ケイテイ朋友トウユウの道ミチおとば發揮フレイして。行得ユキトクる故ユヘ以ヨリてかゆ。是故コノユヘ小チ伊勢イセ大御神オホミコは。大御教オホミコノミチ詔ミコトノコト小チ。黒心クワシなる

まて丹心ニシを以ヨリて。云々クニクニして仕奉シホムきと詔ミコトノコトす。此コノ詔ミコトノコトの釋シヤクを甚シる物モノあれむ。此コノちて丹心ニシは根本ホンポンを魂神タマシ小チ。魂神タマシを頭首カシラ小チ安處ヤスチして。一身イツンの主宰シツカサとゆふ。即ソレヲ天アメ國クニ及キ君キミ父チチは象サマあり。四肢シシ百骸ヒャクカクも地チ小チ。臣シ子コは如サマ象サマあり。故ユヘは四肢シシ百骸ヒャクカクも。それ天アメ國クニある主君ヌシの使令オホホシは受ウケて善ヨシ惡アク邪ヤ正タダシをぞめ。小チ馳歩ハヒき。奔命ホンメイは。ゆふの如サマく小チ。一家イツカの中ナカ小チ。天地アマツチの理コトワリも。君臣キミシ父子フシ夫婦フウフ等ナドは。道ミチも。ゆふと藏カクレす。一身イツンの中ナカ小チ。頭首カシラを天アメ小チして。君キミの如サマく。下シ體ミも地チ小チ。比ヒにる。兩手リウテを兄弟ケイテイは如サマく。兩足リウソクも妻子ヤツコ臣僕シヤク小チ。喻ユすつばく。手足テソクの十指ジュシユを朋友トウユウ衆人シュウジン小チ。比ヒふる。されむ。天地アマツチの理コトワリを推オシて。一心イツシンの上ウヘ小チ及キむ。一心イツシンを推オシて。一身イツン小チ及キむ。

し。一身は推て一家小及び。一家を擴めて。因天下小も及び。
誇る道理小て。天下の本を因小て。因は本を家。家の本を
身。身の本を一心に歸著けるを。論ふまでめりく。大小此を
擴む。上下四方を充溢れ。此は約めて藏む。ば。一家小歸
し。一家を一心に復歸するを。いふも更なる。はれど其
丹心は變化て。黒心と成る者もあるは。大か。と魂神の眞柱
は。凝固る事。足らざば。起して。耳目。口鼻。體。おといふ。
諸役人の嗜欲を引惑をされて。それ權勢小克つ事。得べ。
君上の威光も暗まされ。庸主と成はてしと同理なり。故
小主君たる魂神を。我神聖の道に遵奉して。眞木柱の如

く。堅固く。太く。築立凝えて。古歌。火はも水小め。我かけれ
く。小と詠る如く。火小入とも。水小入ても。焚め。溺きも。失ま
じと。卓乎と。心志を練立れば。神靈自盛。小靈智め。暗ま。活
潑ニ。地小勇氣凜然として。胸中恒小安泰。よて。物小就て。是
非曲直。火は見の如く。清明なれ。奸鬼惡魔め。其間を伺ふ
小處なく。豺狼も。爪牙は措か。と能た。ば。邪疾め。侵入る事。は
得べ。盜賊め。敢て窺得べ。亂臣賊子も。狂謀を施さ。小術。巧く
て。遂に。い。於。この善小化して。我旗下に。服從するが。如き理
故。人。は。努めて。丹心。は。のみ。養育ひ。鍊固め。凝成し。黒心を
ぞ。蛇蝎魅賊。は。如く。此を恐遠く。遠く。清心。丹心を常小捧持

て。善行^{ヨキワザ}は務^{ツト}め。陰徳^{イントク}を積^ツみおぼ。自ら天地万物の大父母と
まは。天皇祖神^{アマツミオヤカミ}の大御心^{オホミココロ}小協^{コカチ}ひ奉^{ホウ}り。至忠^{シチュウ}至孝^{シコウ}を成^ナ遂^スげて。
正人^{サキウ}君子^{ウニヒト}と成^シるを。常^{トコ}小黒心^{コクロココロ}を以^もて。惡事^{アクキ}を爲^ナし。逆^{サカ}行^{ワザ}は
爲^レては。終^レて天皇祖神^{アマツミオヤカミ}は。大御心^{オホミココロ}を背^{サシ}奉^リて。大不忠^{オホフチウ}。大不孝^{オホフコウ}。小
陷^{オチ}て。人非人^{ヒトニヒト}を成^シては。禽獸^{インダウ}と類^{ルイ}を同^{ドウ}うまは^ルくかむ。故^ユて本
性の靈德^{レイトク}たる。丹心^{ニシ}は養^{ヤウ}得^{トク}ると。此^{コノ}を取^リ失^ヒひて。黒心^{クロココロ}。小遷^{コウケン}は
とを。正人^{サキウ}と惡人^{アクニ}を分^{ワカ}る。岐路^{キロ}小^コて。一代^{イチダイ}の失^シ得^{トク}め。ま^マと後
世子孫^{セシ}の存^{ゾン}亡^{ボウ}も。そ^ソれ死^シ後^ゴ靈魂^{レイコン}の永^{エイ}世^{セイ}は。浮沈^{ウシジン}禍福^{カフク}も。皆^{ミナ}此
小因^{コイン}て定^{テイ}系^{ケイ}。一^{イチ}大關門^{オホクワンモン}を知^チる。皆^{ミナ}は。ち^チて世^{セイ}を不忠^{フチウ}。不孝^{フコウ}。不慈^{フジ}。
不義^{フギ}は。無賴^{ムライ}者^{モノ}は。人面^{ニンメン}獸心^{ジュウシン}を云^{イハ}れど。蜂蟻^{ハチアリ}小^コえ。君臣^{クニシ}の分^{ワキ}あ

ゆ。食物^{シヨク}は蓄^{タク}牙^ハを冬^{フユ}小禦^{コオ}つ。系^{ケイ}智^チあり。諸鳥^{シヨウチウ}や。猿熊^{サルクマ}鯨魚^{クジラ}の親
子^コ相親愛^{サウケンアイ}し。犬^{イヌ}の主恩^{ヌシノオン}。小報^{コホウ}し事^{コト}。古今^{コキン}小甚^{コシ}多く。惡物^{アクモノ}の例^{レイ}を
い^イちめ引^キ出^デる。豺狼^{オホカミ}さ^サも人^{ヒト}は助^{タケ}け。其^{ソノ}外^{ソト}鳥獸^{トリケモノ}。小^コはる行^{ワザ}せ
し事^{コト}。數^{スウ}をらび多^{オホク}く聞^キかぬ。實^{マコト}小感賞^{コカンショウ}は。るた事^{コト}小^コて。彼^{カノ}無^ム
賴^{ライ}は。非人^{ヒトニ}を。獸心^{ジュウシン}といふ。右等^{ウダウ}は。鳥獸^{トリケモノ}。小^コ若^{ニシ}靈^{レイ}ありて。聞^キか
ぬ。かむ。極^{キョク}て大小^{オホコ}怒^{イカ}て。彼^{カノ}徒^{トモ}何^{ナニ}ぞ我^{ワレ}を肩^{カタ}を比^ヒる。おと成^ナ得^{トク}む
や。唾罵^{ツバキノシ}て。逆^{サカ}棄^{ケス}て。共^{トモ}にせざ。成^ナるものぞ。はれど。不忠^{フチウ}。不
孝^{フコウ}。不慈^{フジ}。不義^{フギ}は。奴^{ヤツ}らと。今^{イマ}生^ナとゆ。や。おと遙^{ハレカ}て。禽獸^{インダウ}虫魚^{ムシウイ}。小^コめ。
劣^{オト}は。多^{オホク}く成^ナる。おと。更^{さら}小論^{コロン}までも。非^ヒは。かむ。苟^{カウ}か。く虫魚^{ムシウイ}禽獸^{インダウ}。
小劣^{コオト}は。人^{ヒト}を。生^ナれし。のひき。更^{さら}小^コか。きもの故^ユて。人^{ヒト}ちふ

人々能々此を思ひ愧ぢ慎懼れて黒心をば改めて一向に
丹心は保養ふことを務めて皇祖天神小仕奉る本を立
城第一を志すまよふまよふ非人らをもめ汝を人小非
を云ふ必に惡み怒るを見てめ何れも本性を失ふ人も少
き良心のほるは知ぬべき又それ微小き死良心を知得む
守て放失をばして此を養立つるまよふと譬をば一點の炬
火をゆ。大空をも焦はるまよふ。大火とめ成る如く丹き清ま心
を振興して黒き穢心をば。邪をばなく焼滅するまよふまよふ
かし。非人といふまよふ付て。あるとき話あり。醒睡笑。尾張は
熱田宮の祭。貴賤參詣する小彼處も伊勢兩宮の如
く。禰宜集りて袂よつき。錢ももらふ事。聴しきまよふ。小百姓
數多下向する小。借も熱田の禰宜どもまよふ。人でないぞと云

於急度後を見れど。白張。糞束。子。鳥帽子きて。金磨の扇を
えむろが。己を持あるあり。大小駭て其まよふ。た。神半分は
人々と云ふ。己と見ゆ。世小。いはる。神半分の人。はて鳥獸類小
の有る小ぞ。打。嘯。の。は。事。れ。多。の。系。あり。はて鳥獸類小
も種々善行は。聞ゆ。依事。を。別小記て。むと。はる。を。序小。一。二
あけ。だ。醍醐隨筆小。丹波の土民。山小入て。栗。取。し。小。下。ま
深き谷小。て。水。細く。流。たる。奥山。れ。方。を。ゆ。熊。一。子。は。連。來。て。
谷川の側。なる。石。を。抱。き。舉。ま。ば。子。其。石。下。小。入。て。蟹。を。取。て
食ふ。栗。四。五。取。落。し。ぬ。系。小。驚。た。て。石。は。棄。つ。れ。だ。下。り。る。子
壓れ。て。死。き。ゆ。熊。限。なく。悲。鳴。て。己。の。態。を。思。え。ば。誰。の。殺
し。ぬ。る。か。と。彼。此。處。々。叫。び。歩。く。小。十。段。を。の。り。側。に。大。なる
猪。伏。居。る。ま。よ。子。れ。仇。を。や。思。ひ。き。む。猛。り。か。は。猪。起。上。り。

牙キバかみ鳴ナラして待マテかけたゆ。甚イニじた物見モノミかふと見ミわる小半
時計戦バカリタカふて。二共ニツ子傷キズツふと死シぬ。又飛驒人トビは。奥山小入ウチノ狩
はる子。猿數々鳴騒サルカズクナキサワぐ。何イカある故コぞ。中見ナカミかたふハ向ムカふの
大木コノエは梢小就鳥コノエの棲スミたるが。猿子サルコは攫ツカて取テて割喰サキクラふ。親猿小
や殊小勝コトきてもたえ悲カナシこシきるが。彼大木の葉影ハカゲをゆ。縁ヘリら
ひとゆて。上ノボる小音オトめせ。友猿四五トモは。きたゆ。先懸サキガケは
猿飛掛トビカカリも。驚ワシれ足小取アシつけ。四五トモの猿聲サルノネを揚アゲて。ひたく
と足小も翅ツバサ小も。蟻アリの如ニく付ツケた。驚ワシハ多力オホチカラは鳥形トリノカタきぎめ。こ
らアえ。地小落チオツる子。葛ツタ葛カヅラは以モて。手々小一テムデ巻マキた。巻マキて。飛
のく。去イるて百計バカリは猿サルは巻マキれ。少シも動ウる。俵物ハハの如ニく成

ぬ。猿を谷々小歸カヘきた。狩人此ココを拾得ヒロヒとゆ。親猿何イカは加カと哀カナシ
くて。加カる謀マカリはや為レ々む。我業オノサトめ此ココ驚ワシ小違タガふ事コトふとせ。と。
狩カり止ヤメまると。窓マドのまさび小も。薩摩サツマ固カタなる獵師リョウシ。山路小
かけ路ミチは踏フミをづし。谷底オチへ陥オチて。絶倒ツツをけるを。大熊の掌オホクマノテは
口小當アつる。嘗ナメたるよ。甘アメき事限リれし。さて熊先小立クマサキと行イ
小附ツキもゆく程ほど。窟イナヤの中ナカは入イぬ。草クサを敷シキて其上オノヘ小居イしめ。勞イロ
はる身ミ小て。時々掌オノテは出デし。舐ネらはる小。飢ウふ事無シ。明日
歸カヘる時トキと。人小暇イダヒ乞コふ如ニく。志シて出デる小。熊クマをかぶ。惜
げよ。見え。登ノボる。路ミチまで。按内アチして別ワれ。ゆ。此ココの者不
仁ニある者小て。其後鐵炮テツポウを持モチ。か。れ。道ミチをゆ下シて。彼の熊クマは

打殺し、膽を取らば、奉行所へ捧し小。中将綱久朝臣。其次第に
聞賜ひて、獸を殺さずめ。人比難義を救ひ、勞をせし小。其恩を知らざ
らぬのこねらば、此を殺さば、事人小して、獸は成れぬ。かゝる
者い。世に戒おとせ。其窟の前より、磔小行をれやゆ。宋景
濂の筆語小め。狸々小助られて、却て此を殺さむと謀りし
事あり。昔より善人れはる事必符合し。悪人の爲業。又同く
合ふ事。一、二、小あらばと記し。新著聞集小。江州甲賀郡の山
中。小てあは女産月小。木葉かたより出ゆる小。殊外は惱む。岩
上、小臥多居きるを。熊來て女は岩穴より引きよみ。子を産ま
む。一七日過ぎる里小歸りたき由をいず。熊うあづく小

依て、子抱きて歸せし。十左衛門といふ狩人。それ在所に
尋ねし小。始々云えば、正しは、漸々小まのしけれど。女狩人
を連きて行ふ。熊の居所を教ふる小。件の熊穴をゆかけ
出。女を寸々小引さき。行方知らば、逃失やゆと云ひ。今昔物
語小見ゆ。陸奥国に賤人の犬の。山小入る。大蛇の主は吞
む。ゆるを告げふ。三、四傳記ある。近江国犬上郡に故
事。此を決めて上代の事小て。風土記に傳ふらむとぞ。所思えとる。市井雜談ある。參河国碧
海郡。犬頭社の事。思合はる。牛馬問小。柳生但馬守。猿
太刀小して、劍術したる小。此、猿至極業小。通じて、初心の第
子も、いつも此、猿を尊しを。あり。愛小。或、浪人。健小。自慢よて。
柳生小立合せむと思ひて。此を請ふるよ。但、州聞て。安き事
あら。おぼ。此、猿と立合見られとある小。浪人大は腹惡

き顔色小て此を餘りある事といふ小尤あれども先立合
見られを有る小竹刀持てゐる猿小き志を
を手持つてつゝを備て何の造作もかく件の男を打た
ゆ、按手相違し今一度と望むれど又一匹此猿を出し小又
此小た、加れ大小面目失ひ歸る夫とゆ四五日程を
夜を日小つぎ精細工夫を盡し又行て件の猿と立合申
たしと望みきれぬ但州聞見申し小其方工夫先日とゆ
め殊外上達あり今度中々勝事成かたし夫をゆめ立合見
られ候すて猿字出さば、小未と鐘を出さざる小猿大
小啼と逃しやふり件男も但州の門第と成り奥義伝
たゆと云猿さすめ學ぶ所を知らぬ人中の有無を知る況
や人と云て妙術を備すまじくやを記せゆ家や漢人も鳥
小だよ如ざるをむと云る言をも深く想ひて人
の家比道々の本をどく踏行ふるもの小おそ

○ふたね

ふと里れたや小きみぞ加み。

とくつゝのふるゝみちれもぞ。

人比降生れ來し本をいふば父母の大恩小とする事今更
いふまでめあらば故子父母を小天地小く天地は大父母
ありと。或人の云るの如く。故翁も返はく此義を説れて
有る通ふて世は徒者れ動もほきむ。親の世話小成らぬか
ぞいふめ有る。言語道斷の言とも小て。若幼穉時子。父母
の棄て養あげざる時を。生てはふる由を。絶更子形な
とめ知らぬえ。何ふる惑迷れ甚き小のあらむ。問は語小
縁子といふ頃まで。父母の心づゝひ至らぬ。腰あし。火よ近
けむ手を出し。水小臨む。足あき。衣を漉し。寶を擡き。凡
て善からぬ限。愚かる限。を盡せど。此多惡し。と怒る。父母か
し物打おどぬ。あどぬ。れど。取收めぬ。愈ゆと。躬のらせむ。此
子のさえ。開々ぬ。を知て。いとを。し。み。深。な。故。あ。ゆ。固。守。る。民
の父母あゆれど。然らば。かくいとを。し。む。心。小。き。似。ぬ。ぞ。

あ小おろの悪やと
を宣よぞと云。加、
推極れど。皇祖天神小ま心。皇祖天神ハ。一切万物小も。天地
日月諸星小も。盡よ大父母と坐して。そ此御嫡孫をこ。御
天降の。皇美麻邇々藝尊と申奉る大神と。御代々々
天下大知しめ。やがて我天皇小御坐。故。から人
も。忠臣孝子。門小求む。いふ如く。親孝あれど。必
君小忠あり。君小忠ある人。必親小孝ありて。他國を除
知らば。皇國小ては。忠孝ハ必一。小て。二。おな御國おま。忠
孝とめよ。此まめとい。するお。き。さて此忠孝ある人
き。必家よ。か。家を。と。治め。朋友小交。ては。必信あり

て。眞直ある事め論。故小。此ま道。本。して。實徳を治
め。積む基と。え。若。忠孝あるては。家屋。作。基
お。川水小泉源。お。如く。其他。い。る。區々。多
才多能有。と。め。凡。取。小足。ざる。形。凡て忠臣孝子等の事
を。因小孝子。れ。事を。少。云。む。小。十訓抄。寢覺記等。元
正天皇の御時。美濃。困小貧。く。賤。男有。き。り。老。る。父を。ぞ
持。あり。此。男。山。の。木。草。を。取。も。そ。此。際。得。て。父。の。命。を
お。謀。小。し。を。ふ。此。父。朝。夕。強。ち。小。酒。を。愛。し。飲。き。れ。ど。成
瓢。を。腰。小。付。て。酒。賣。る。家。小。臨。み。て。乞。お。絶。ば。父。小。飲。せ。け
こ。或。時。山。よ。入。て。薪。を。採。む。と。爲。す。昔。深。な。石。小。去。る。り。て。轉

びぬ。彼石より水流出て。其色酒小似とゆわれ。汲ぐ嘗れ
ず。めでたき酒かゆ。うれしく思ひて。其より日々小此を汲
て。心のおよ小父子飲せむ。御門此事聞召る。靈龜三年
九月小其所小行幸ありて。御覽じて。至孝れ志を。天神地祇
の憐みて。それ徳を顯賜ふかゆ。感ぜさせ賜ひて。此男を
ぞ。それ国司小成され。酒の出る所たぞ。養老瀧を號られ。全
十一月小年號を養老と改られむ。此或者の疑ひて。因
と云るを心得。因史小見えぬ事。他書も見るま。いと多
しとは知らば。又此孝子の仙と成て。後世まで有。此由
も玉くしげ小記せむ。因小云。一宵話小醴泉の出しは。此泉
と。まよと持統天皇七年小近江國益須郡。み出しを。文徳天皇
仁壽四年小石見。因小出。しと。國史小見も。信濃國埴科郡。石
井澤小も。昔酒泉。瀧し。跡ありと。土人云。かゆ。又蝦夷のチリ

ホイ嶋小酒泉ありて。石間より流出て。味も上酒の如く。香
き梨れ如し。いりちど過飲をれど。め悪酔はる。ちとれ。是
をカモイワフカといふ。神酒をいふ意あり。草道云。此事蝦
唐土の酒泉。め西北の地小出。て。此方れ。酒泉も。北方小あり。
人製の酒味薄き地小。い。又。ふ。奇事もあり。天道の人。返
恵み給ふ理。ある。と云。ゆ。百鍊抄。二條天皇。永。元。年。
六月八日。蓮花王院。西。砌。醴泉。涌出。承仕。有。夢。想。貴。賤。汲。之。と。
古今著聞集。元亨釋書小。見。え。ま。と。吉。野。山。こ。と。ゆ。め。酒。
泉。ある。と。今。昔。物。語。小。見。む。往。年。越。後。ま。と。下。毛。野。武。則。公。
因小も。か。ゆ。事。有。し。を。聞。る。を。察。小。や。ま。と。下。毛。野。武。則。公。
助。を。い。ふ。隨。身。父。子。あ。り。け。ゆ。右。近。馬。場。れ。賭。弓。悪。く。射。た。ゆ
と。て。子。息。公。助。を。け。し。め。れ。た。れ。小。て。や。の。て。撲。々。る。小。逃。の
く。事。め。あ。く。て。撲。れ。々。ま。ぞ。見。る。人。い。の。小。逃。び。し。て。か。く。ま
う。た。る。と。ぞ。と。問。け。ま。ぞ。若。逃。去。れ。た。年。と。れる。身。小。く。追。む
お。と。等。せ。む。倒。れ。あ。む。不。便。あ。れ。む。か。く。心。の。ゆ。く。限。打。る

とぞ云々る。世人いみじに孝子ありとて。世に覺えも殊外
小勝^子にけりかど見え。よと河野通信の。父仇備後の頭入道
討^{ウチ}たる。曾我祐成時宗兄弟の。仇伊藤祐經を殺せり。此兄
塔を駿河國蒲原の近郷久澤村福泉寺小在りて兄を高崇院
弟を鷹岳院と稱ふ。又富士に麓小祠ありて勝名荒神と號
て二人の像有て敵打輩を必詣て祈る事ありしを。上杉氏
が臣直江兼續が此小軍せる時。軍兵ども神射を奪取す。
今に^今出羽國米澤の福泉寺小在りしを。近頃彼の住持ふと
狂氣し。弓を射るまねかど。様々をせしめける。御湯を進
めて。託宣を聞く。大切神祠を輕蔑小ける。依てかゆと
人々驚ま。懸小祀の。正氣小成りしと。新著聞集大
和恠事談小云ひ。よと箱根山三途河をいふ邊。小も兄弟及
大磯。虎が石塔あり。よと石井兄弟が。それ父讎を報いしを。
元祿四年五月廿八日。小て十八年を歴た。此兄弟が
志を得たゆしも。建久四年五月廿八日。よて。共。月日。全
くせゆと。或物小云る。日野阿新ぬし。父資朝卿の北條賊
を。由ある事か。ゆるし。

の爲小。佐渡國小流されて。失れ賜ひし。倚て。此字討參
らる。本間三郎といふを誅せられ。宇喜多直家の親れ敵
嶋村觀阿彌を戮せる。名高き事小て。芳を百世小流に
ゆいふる。よと甲斐に西郡小。武田の下隸小。長沼長右衛
門といふ者。信濃國小用びる事有て。往て座光寺の家來。
青柳柳之介の弟。縁之介といふ者。ふと論をして討きた
り。長沼が子小。長介長八とて二人有し。小。幼稚時より母の
教立て。いの小もして。それ敵を討てむと。年月思居て。兄を
廿一。弟を二十の春。武田の八幡宮に詣て。深く祈る。討得べ
ぐ。再度歸來よじ。誓紙に書て。社前の杉枝小結付て。信濃

小往て。諏訪鹽尻の邊。百日かど忍て逗留。そは友小増
城源八。石田長藏。矢野新九郎。飯室喜藏とて有し。いざや
見次てむとて。打連る往あひて。その由を語れど。兄弟の者
手紙打て。御志を忘難く候。せめて。甲州小てもあらざ。討ま
まに事め有。あむ。爰も他。因殊小敵方も遠のらぬ。討得た
ことせめて。遁る。事難し。然れど。詮あき友等。命を失えむ事。
努力有るのらば。又万一仕ました。共。四人の中一人小
せめて。死にる事。あらざ。我等追腹切らで。成まじ。然ま。巴方
方以て入ざる事。あり。各歸給え。此敵討思止候。ふるし
せ。いふ。よ。四人の者。懐と。り。連判の起請文を出し。定めて左

様小云れむと思ひて。かく約固めた。男道を琢く者。歸れ
と云。せ。戻ては。何處小往。とて。男道の立。る。き。又助太刀小
來る程の者。の。死ぬまじ。を。思ふ。る。き。か。え。四人。中。死。し。あ
らば。切腹。せ。む。を。云。ゆ。も。更。小。心得。が。た。し。其。方。死。した。ら。ば。
四人も腹切る。る。る。敵。ご。小。打。負。せ。た。ら。ざ。互。り。少。め。構。侍
ら。じ。を。云。切。て。一。味。同。心。の。約。束。ま。て。四。五。日。經。く。諏。訪。れ。市
小。柳。介。縁。介。上。下。十。四。五。人。小。て。出。し。返。長。介。方。小。も。十。二。人
小。て。敵。を。隠。れ。あ。き。大。剛。れ。者。あ。り。し。か。ど。も。思。ふ。ま。小。討
取。と。り。手。負。も。せ。れ。ど。め。養。生。し。く。快。氣。し。ぬ。は。て。増。城。源。八
也。飯。室。喜。藏。の。義。信。衆。小。も。長。介。等。四。人。を。其。被。官。あ。り。し。の

ぞめ信玄は命ふて義信衆ふ成し。此兄弟は信玄見ふ毎ふ
必詞を掛し故源八妬として柳介をむ我等の討て取らせと
云と云弘むる小長介等初めをおせしと持成しきれど
も終は堪忍しがと成て討果はるしと云ふ小長藏喜藏
新九郎云く御立腹を最ふれど源八が邪云たて。打果
給て敵討の時れ首尾十分ならぬ故を取さたまはし。ば
てき無念の至あまば。只目安を以も信玄殿は御裁許小任
せとといふ。此義然るはしめて目安を指出して遂は信玄
前ふて對決ふ及ぶ。諸人の言皆長沼がいふ小少も違え
ば爰は信玄云く友は敵討ふ助太刀の志を頼もしく。武士

た。かく無ては叶えど。さふ城増城の心入を空氣小て取し
めふし。命を捨て助太刀子出る程ならば始終それ道理を
立ておそ侍ふれ。それを妬む。卑興ありとて増城負しかど。
事形く濟とゆ。翌日信玄仰ふ。長助等此小在ては互小意趣
残て。打果は事め有むとて。義信小所望して。兄弟は内藤修
理は預らば。その後三年川中嶋の戦小。此地の戦も數度あ
度ありと古老物語ま。大關定祐ち。源八殊外子遁と利友
ふ人れ。川中嶋合戦辨論小見えとゆ。源八殊外子遁と利友
の古屋某の臆病せと云とゆ。又訴て對決ふ及ぶ小。源八
負しかど。重々の罪指置がたとて。逆磔小せられしと。犬
著聞集に見ゆ。此長沼兄弟の孝思は。八幡大神の敵感有て。

冥助に賜を乞ひしき勿論小て。其代頃の士風をいひ。讒佞の徒に顯報めり。又信玄の賞罰の正おも。皆感賞ある旨あまむ舉つ。窓のまはびよ云。元文三年の冬。浪華舟士浦屋太郎兵衛といふ者。米船を盜取りし事。謀計現れ。三日の間曝して死刑小處に處ふこと。十一月廿八日をゆ。はらしきる小。其子長太郎十一歳。姉妹二女。翌廿九日夜も明ざる中小。町奉行佐々木氏。行て。父に代小我々共を刑せられ。父は免し給えれと。自筆に上書し。又かく願ひけ。は。よど幼少ふれぬ。願書め。あどけなく。殊に長太郎を養子小て候間。我々は失て賜えれ。二女の書上たる小。長太郎

を某代め代小取。給えきと。書出を。兩町奉行立合。此事を尋聞れ。若し人れ勸めける小やと。其所の者ども。呼て。糾明に。小誰め。曾て知らば。母を此を頻小制しぬれ。隠れ。三人出々。ふと。し申。三兒を此事叶え。火小め水小も入ぬ。る。見え。て。上下見る小。忍。其曝。事。を。止。重。沙汰。に。る。し。漸々小返。され。て。此を江戸小達。し。御さ。し。づ。よ。て。明年刑人を死を赦して。追放ありき。り。三兒の至誠人を動。事。誠。希。ふ。る。例。よ。あ。そ。と。云。ひ。耳袋小め。右。事。を。載。て。享保の頃。雑司谷。石神魚村の七十餘。れ。者。の。箱。と。云。る。ハ。誤。れ。る。小。や。訴。小。因。て。入。牢。せ。る。を。三。人。れ。子。の。相。争。ひ。も。我。を。代。小。入。れ

給子ヲを歎ナガまきける小。皆人袖ヲを絞シこし。一夜入牢ニて翌日ニ跡方ヲめかば寛ナ小決シて。やがて免ユルされた。親ニく見ると志記シ。西遊記ニ。薩摩国鹿兒嶋郡ニある。百姓治右衛門と云フの子小。太郎八今年十四歳。妹万龜同十二歳小成れ。幼少とゆ二人をめ小。性柔和小。兩親ニ孝ヲ盡シ。假初小も忘ルる。事レれ。去西の九月兄九歳。万龜七ト時。その母産後。まど日數立ガる小。稻苅の爲ニ。田小出テ働カきし小。血道の病起リて。色々養生せしカぎめ。更小快クらば。今年まで六年ノ間床小付漸々疲レれ起リ臥シ。自ら成ラる小。二人の小兒常小母側ニ付キひハて。起キ臥レれ手傳ヒとゆ。食事小

至ルまで。細小氣ヲをつけ母の不自由ニかき様小拵ヲ。病中小母ノ心ヲを使ツせ。又腹立テせて悪ク加ヘるシやて。何様ノ無理ナル事ヲゆリてめ。あいくものみとく返シ事シて。少シも母ニ氣ヲ逆テぬ様ニせり。元來小百姓ノ事ヲかれバ少許ニ田畠ニ。太郎八耕作ヲをめ務メる。留守ノ事ハ妹小云ニ含メて。氣ヲを付キさせける小。妹ニ亦ハ加ヒぐも志ク心ヲ盡シ。そレ終ニ孝養ス兄小劣ラズ。太郎八め夕方早ク歸ル。先ニ其マ母ノ側ニ小とどろひ。手ヲを握リ顔ヲかへて。其日ノ母ニ氣色が委ク尋ナぬ。又我田地ノ様子。其日小在リ事トもを語リ聞セ。粟穂ホまとた唐芋ヲふとを出シて。母ニ見セれバ志スて。覺エば時ヲ移シ。

終小夕飯^{メシ}取^ツめ忘れ^{ワスレ}し事多^{コト}の^{コト}を^サあゆ^ハらて眠^{ネム}る前^{マヘ}小^コも。兄弟^{ケイテイ}の子ども。我^ガ耳^{ミミ}取^ツ母^{ハハ}れ顔^{オモ}小^コとせて。右^{ミデ}と左^{ヒダリ}もそひ伏^{フス}し。万^{マン}一夜^{イチヤ}中^{ナカ}寐^{ネイ}入^リし間^{マヒ}母^{ハハ}れ氣^キ分^{ワケ}小^コてめ悪^{アク}く。呼^{コヒ}起^{オコ}はし時^{トキ}尤^{モト}早く。目^メの覺^{サマ}る様^{サマ}小^コとてぞ伏^{フス}しけふ。又^{マタ}冬^{フユ}寒^{サム}ま夜^ヨも。自^{オノ}ら帶^{オビ}取^ト解^トき。母^{ハハ}の足^{アシ}を懷^{イニ}よ入^レ抱^{イダ}まて暖^{アツ}めもし。又^{マタ}母^{ハハ}氣^キ分^{ワケ}あふく傷^{イタ}む時^{トキ}小^コも。兄弟^{ケイテイ}打^チ寄^ヨり背^セ中^{ナカ}取^ツさけり。手^テ小^コ取^ツつき。自^{オノ}ら藥^{クシ}取^ツ口^ク小^コ含^フみて飲^ノせ。泣^{ナキ}悲^{カナシ}ま氣^キ遣^ツふ様^{サマ}子^コ傍^{ソバ}とゆ見^ミふ小^コ。其^{ソノ}病人^{ビヤクジン}とゆめ。却^{シテ}兄弟^{ケイテイ}れ子どもの方^{カタ}。あはれよて。近^{キナ}邊^ヘの者^{モノ}も。力^{チカラ}取^ツ添^ソて介^{カイ}抱^イしける。母^{ハハ}をかくれ如^ニき子ども介^{カイ}抱^イ小^コて。貧^{マシ}き中^{ナカ}小^コめ。不^フ如意^{ニイ}の事^{コト}取^ツ覺^サえは。六^{ロク}年^{ネン}を送^{オウ}りし小^コ。それ病^{ビヤク}日^ヒ

日^ヒ小^コ重^{オモ}くて。今年^{コトシ}の五^{イチ}月^{ゲツ}空^{カラ}く成^ナりぬ。兄弟^{ケイテイ}れ子^コ共^{トモ}の歎^{ナガ}ま云^ハむ方^{カタ}れし。さて有^アるは小^コあらぬぞ。親^{オヤ}類^{ルイ}打^チとゆ。葬^{サウ}送^{ソウ}取^ツ營^{エイ}みきる小^コ。二人^{ニヒト}は子^コ今^{イマ}生^ナ小^コ。母^{ハハ}顔^{オモ}見^ミる事^{コト}是^{ココ}まであまば。葬^{サウ}送^{ソウ}取^ツ期^キは一日^{イチニチ}あるとめ延^{ノボ}たしめて。晝^{ヒル}夜^ヨ母^{ハハ}の尸^シ側^{ソバ}を離^{ハナ}れ泣^{ナキ}き沈^{シヅ}みし加^カた。此^{ココ}見^ミ聞^クく人^{ヒト}々^々。涙^{ナミダ}を流^ナさし涙^{ナミダ}を離^{ハナ}れ。去年^{クワネン}八^{ハチ}月^{ゲツ}。郡^{クニ}奉^{ホウ}行^{コウ}得^{トク}能^ネ某^{ナニ}。巡^メ行^{コウ}の時^{トキ}。此^{ココ}を聞^クれして。守^{シウ}殿^{テン}小^コ聞^ク上^ウし小^コ。奇^キ特^{トク}は思^{オモ}食^シして。米^{コメ}二十^{ニジュ}五^ゴ俵^{ヒラ}を兄^{ケイ}よ。錢^{ゼン}五^ゴ貫^{クワン}文^{モン}取^ツ妹^{イモ}子^コ。褒^{ホウ}美^{メイ}を志^シて賜^{タマ}ふるあとを。委^{オウ}く記^キしる。さて忠^{チュウ}臣^{シン}の事^{コト}ハ。別^{ベツ}小^コ記^キてむとたれど。今^{イマ}あげ。武^ブ者^{シャ}物^{モノ}語^ゴ小^コ。昔^{ムカシ}め今^{イマ}も。主^{ヌシ}よ不^フ忠^{チュウ}の侍^{サマヘ}と。親^{オヤ}よ不^フ孝^{コウ}れ子^コ取^ツ聞^クては。譬^{タトヘ}ひ見^ミぬ世

の人ありとめ。名はのみ聞傳て。皆人け嘲は事珍のらび。
慎むるし。古歌小。幾度も。主け命小替るるし。二心ある。永き
恥かれ。君を仰ぎ。親を思ひて。かこそ免も。貴を賤に。禮義み
ど夫かと云ひ。或物より孝道とは。一日も親の在に内た。一口
徒事を止め。やのく親に喜しがゆ。悦び給ふ様ふと心がけ
て。朝夕仕。身老らぢらひて。老狂たゆとて。侮輕しめ。能仕
後。を我身を親に遺。躰と思ひて。家職忘れ。父親の名跡
失え。父身を大事よかき。我がぐら。我もあつかした。ち
ねの分多。殘志。形見と思ひて。夫婦中をく。子孫をく。育
養ひ。陰惡を慎み。陰善を成さぞ。先祖の報恩。兩親の至
孝あるる。ちて。或人め論る如く。正ま道なぢゆ。知らぬ徒
を。忠はと孝ぞと思するめ。いと取違。たるの世小多加。家
ま。もや。妖物のまのわざと。外。風子かきくら。はされて。亂

代と成。えてことと。正けおぢある。殊小哀れ。覺ゆるは。北
畠物語小。織田殿三瀬御所に討手。藤方刑部少輔。奥山常
陸介等。故して。天正四年十一月廿五日の朝。此を謀らし
む。奥山を俄小病。故稱し。留りぬ。終り長野某と加留左京
二人。因司具教。卿被害。年四十九歳あり。それ公達を始め
て。一族十三人を滅し。田丸のみ残れ。爰小藤方御所慶由
入道は。曾て人質として。田丸小居られ。きる。此を見聞て。
落涙斜からび。殊小子息刑部。今度不義を企て。因司を殺し。
因。多愁歎。れ餘刑部小對面し。抑去。夏嫡孫長嶋。城を落。て。家
名を失ふの。よからび。今ま。と汝大逆無道。故顯を。惡名を

末代小残^コに。主君をいひ。一族をいひ。心ある人誰の此^レを歎^{ナガ}
ざらむ。其報急^{ホク}は子孫小受^{ホク}く。滅^{ホク}む事眼前小在^{ホク}。愚老命長^{ナガ}
らず。かやうに無道を聞^ク小。耳穢^{ケガ}き心常あらば。只世多早^{ハヤ}く
去^クて。泉下小到らむ小。如^シじと。眼^メを瞋^{イカ}かし。齒^ハのみを爲^スに。
刑部答^{コタ}ずて曰^ク。我元本意小あらばと云^フども。かゝ人質と
爲^スて御坐あれど。せめて御命^{ミコトノミ}を助け。御心を安^{やす}めらる^ルめむ
爲^ス小。心外の逆意^{サカシ}を企^クて候^{マシ}と。詞^{コト}を盡^{ツク}してわびやれど。慶由
云^ク。汝かゝ謀^{マカ}を聞^クた。急^{トキ}小。国司^{クニノシ}を下げ。三瀬小多主人
を共^ト小打果^{ウチ}し。我老體^{ワラシ}を磔^{ウチ}小かけおど。眞^{マコト}小君臣の面目。武
士は本望^{ホノボノ}を遂^ユげし。今に問答更^{マシ}に益^{ヤク}れしや。何とかく立

出^デて。深井小飛入^{フカイ}る。終^ハは自らきえはてらば。其義心^{ヨシココロ}を世舉^{ヨコ}
つて異口同音^{イコトウオン}に。此^{コノ}を響^ヒひ。果^ハして其子孫^{コノミヤコ}日々小落^{オチ}ぶれて。
後^{ノチ}を大津小住^{オホツツ}して。旅籠屋^{リヤウヤ}を成果^{ケチ}しや。其家人^{ミヤドコロ}加^カ留^ル左京
た。刑部^{ケイブ}を勸^{コト}め^テ逆意^{サカシ}を企^クて。国司^{クニノシ}を討^{ウチ}し。幾程^{イキヂヤウ}おと重病^{ジュウヤク}
に受け。五體四肢^{ゴタイシジ}去^クくみ^ミて死^シにや見えぬ。おれ縁^ヱを。織田
氏の残酷^{サカシ}を。はるもはふ^ハく。北畠^{キタハタ}は臣下^{シノ}を。め^メの逆^{サカシ}行^{ユク}をゆ^ユ。さ
ぞかゆ南朝^{ミナモト}小忠^{チウ}を。仕奉^{シホウ}らして。御勲功^{ミコトノサト}高^{タカ}のこし。清^{キヨ}を氏族^{シユ}
に絶^ツえて。おと。中小^{コノ}慶由^{ケイユ}ぬ。この言^{コト}舉^{アゲ}れを。し^シく。父子^{コトノ}の
際^{マギ}小も。か^カく天淵^{テンエン}と異^{コト}なる行^{ユク}を。こしめ。果^ハ小其返^{マシ}し矢^ヤもあ
るも。おれ老子^{ラジ}の語^{コト}小も。善^{ヨシ}人を。不善^{サハシ}人の師^シ。不善^{サハシ}人を善^{ヨシ}
人の資^{ツケ}を見^ミえ。孔丘^{コウキウ}氏^シも。賢^{サトウ}を見て。齊^{サイ}のらむ事^{コト}を思^{オモ}

ひ不賢を見て内ウチ自ミ省シとも云イハる如ニく。共ニ世ヨ戒トとあハりぬかシせズ。

○みね

みちととふいふ。みねもやほ。

かみをほつゆれ。まねゆや。

道ミチやいふ事コト起アり。我ワが天皇ミコトの大御祖オホミソト。皇美麻邇ミヤマニ々々藝命ゲノミコトの天上アマノ小コて。此コノ世界ヨの大君オホミコと。天皇ミコト祖神ミソトは詔命ミコトノミコト小コ因ユて。御建ミタテ遊アソぶされし時トキ小コ恐カシ多クめ。天皇ミコト祖神ミソトの大御口オホミクチおら御傳ミツタ授有アタて。天下オホミタカラは公民シロシメス御統御シロシメス小コ付ツケて。天地万物アメノモノの出来初デキハジメめし由縁ユエを盡コトふ。天皇ミコト祖神ミソトの造化タマシヒは御神德ミカミツク小コ因ユて。出来し物小コて。某々ソノソノ某ソノ大神オホミカミの御德ミカミツク小コ係カゆ。彼カノを某神ソノミカミの持分モチウケて。御掌ミツツ

遊アソぶさるやいふ。事コト宗ミヤコト説トキ誨サトさせ給たまひ。そは国内クニノチの公民シロシメス安ヤスく平ヒラく聞食キコシさむ小コた。先マそれ大本オホモトたる。天御神地御神アメノミカミツチノミカミ御祭祀ミツリあらでま叶カナえぬ。故宗オホミヤコトを授賜アタマシるを。天津祝詞アマツノリトの太詔詞オホノリトを申マウせは故オホ子コ。此コノ字ナリ惟神カミナガリある道ミチといひ。道ミチちふ道ミチの起原オコリ小コて。本教オホノミヤコトと古コノく云イハひ。其御教詞ミカミツクも。又本辭オホノハジメ。又先代舊辭マタノハジメとも。神カミやめいひ。それ道ミチのほ小コく行イたせ賜たまふ。故御祭オホノミツリ事コトやいふ。此故オホ北畠親房キタハタノチカサ卿ノミヤも。祭政ミヤコトを一致イツシあるを。しを。反ウチ覆カヘして説給トキひ。本居翁オホノイモの説トキ小コ。又平伏事ヒラキヨロハ小コて有アらむとある。宗ミヤコト小コ此コノの義ヨミを含有フクミモたるよ。凡オホ此コノの天下オホミタカラは公民シロシメスをば。元天オホノ皇祖神ミコトノミヤコトの御物ミツモノおはす。天皇命ミコトノミコトもそは御手代オホノテシロとして。慈親オホノヤの

弱兒^{ワクゴ}故^コ愛^ヒ育^タはるの如く小。万事^{マンジ}御心^{ミココロ}を盡^{ツク}させ給^{たま}ひ。此^{コノ}を養^{ヤシ}
育^シ。此^{コノ}を教^{ヲシ}立て。永久^{トコシヘ}小。天^{アメノ}年^{トシ}は得^エて。生^{ナマ}命^ノを遂^{トグ}保^{タモ}つ。御^ミ
心^{ココロ}勞^{ラウ}遊^ユむは。御^ミ職^{シヨク}務^ム第^{ダイ}一^{イチ}小。有^{アル}らせらば。事^{コト}也^{ナリ}。即^{ソレ}天^{アメノ}皇^{ミコ}祖^ノ
神^{カミ}の御^ミ教^{ヲシ}詔^{ミコトノリ}小^ニ。續^{ツギ}日^ヒ本^ノ紀^キの詔^{ミコトノリ}文^ヲ子^ヲ。動^{ウツク}あむ証^{アカシ}有^{アル}上^ノ小^ニ。先^マ
師^シの玉^{タマ}だま^ヲを初^{ハジ}めて。何^{ナニ}くれの書^{シヤク}小^ニ。委^ツ曲^クは説^{トキ}示^シされた
ふが如^ノし。はれど天^{アメノ}皇^{ミコ}命^ノ小^ニ。天^{アメノ}神^{カミ}地^チ祇^シを御^ミ奉^{マツ}祀^リ遊^ユむは。天^{アメノ}
やぐて天^{アメノ}下^ノ万^{マン}民^{ミン}故^コ安^{ヤス}泰^{タイ}小^ニ。有^{アル}ま免^{マフ}む爲^ノの御^ミ祈^{イノリ}は外^{ソト}形^{カタ}く。天^{アメノ}
下^ノ万^{マン}民^{ミン}の各^ノ其^ノ所^ノ故^コ失^{ウシナ}えど。泰^{タイ}平^{ヘイ}小^ニ。安^{ヤス}みまは。即^{ソレ}天^{アメノ}皇^{ミコ}祖^ノ神^{カミ}
の御^ミ依^ヨ頼^{ライ}小^ニ。報^{ウケ}奉^{マツ}じ給^{たま}ふ道^{ミチ}理^リは。上^ノ天^{アメノ}神^{カミ}地^チ祇^シをい。おき
祭^{マツリ}給^{たま}ふは。め。下^ノ万^{マン}民^{ミン}を平^{ヘイ}伏^{フク}す給^{たま}ふは。め。壹^{ヒト}是^{トモ}小^ニ。か。く。万^{マン}都^ツ里^リ

古^{コノ}登^{ノボ}と申^{マウ}せるあり。は。き。ど。祭^{マツリ}事^{コト}は。上^ノ小^ニのみ。執^{ツク}らせ給^{たま}ふ
御^ミ物^{モノ}小^ニ。下^ノ様^{サマ}小^ニ。は。行^{ユク}ふ事^{コト}。能^ヲえぬ。ま。や。思^{オモ}ふも。有^{アル}あめ。
ど。ち。ら。び。上^ノ様^{サマ}小^ニ。は。行^{ユク}え。せ。賜^{タマ}ふ。え。天^{アメノ}下^ノは。大^{オホ}政^{セイ}小^ニ。それ。御^ミ
祭^{マツリ}事^{コト}の中^ノ小^ニ。我^ガ人^{ヒト}は。涵^{マツ}浴^{ヨク}奉^{マツ}じて。在^{アル}る事^{コト}。魚^{イサ}の。水^{ミヅ}中^ノは。在^{アル}る。人^{ヒト}
物^{モノ}の。氣^キ中^ノ小^ニ。在^{アル}る。自^{ミづ}ら。知^チら。ざ。る。の。如^ノく。て。寸^シ刻^{コク}は。間^マも。離^{ハナ}る
ふ。と。能^ヲえぬ。え。我^ガ人^{ヒト}を。め。小^ニ。それ。程^{ハジ}々^{ツツ}の。祭^{マツリ}事^{コト}也^{ナリ}。仕^シ奉^{マツ}る。道^{ミチ}理^リ
あり。そ。ま。神^{カミ}官^{クワン}等^トの。其^ノ宮^{ミヤ}社^{シャ}は。奉^{マツ}仕^シれる。は。勿^{ナラ}論^{ラン}小^ニ。士^シ農^{ノウ}商^{ショウ}
工^{コウ}也^{ナリ}。各^ノ其^ノの。職^{シヨク}業^{ギョウ}を。以^{モツ}て。奉^{マツ}公^{キョウ}せ。は。ま。皆^{みな}ま。は。は。は。
と。よ。非^ヒふ。ま。は。あ。り。そ。も。政^{セイ}事^{コト}とは。上^ノ小^ニ。い。ふ。如^ノく。上^ノは。奉^{マツ}
公^{キョウ}に。も。下^ノは。服^{フク}從^{ジュウ}せ。ま。は。む。る。小^ニ。め。い。ふ。稱^{ナヅケ}は。ま。そ。は。一^{ヒト}職^{シヨク}を

謹^{ツレミツ}務めて敢^アく逸^ヒ豫^ヒせらるる。云もて往^テむ。上^ニ幽^ク界^ニ小^シして
る。天^ノ御^ノ神^ノ圀^ノ御^ノ神^ノ顯^ル界^ニ小^シて。天^ノ朝^ニ仕^テ奉^ルる。相^ツ違^ヒぬ。家
小^シて祖^ノ先^ノ父^ノ母^ノ小^シ仕^テ奉^ル。下^ニ兄弟^ノ妻^ノ子^ノ奴^ノ婢^ノをも平^マ伏^ス
て。内^ニ治^メ外^ニ隣^ノ里^ノ朋^ノ友^ノをめぐ導^キ誘^ヒひ。惡^キ道^ニ面^シ伏^ス
志^ヲ免^ルじや^レほる。一^ニ小^シ皆^テ天^ノ朝^ノの大^ニ政^ニ仕^テ奉^ル。近^ク此^ノ
身^ヲ小^シ受^テ行^キ道^ニ理^シ小^シて。皆^テお^シごと^ニ非^ルるを^シお^シれ^テ即^チ
正^シし。天^ノ皇^ノ祖^ノ神^ノ神^ノ隨^ハお^シ道^ニ。知^ラば^レく^ニめ^テ服^シ從^テ奉^ル。暫^シ
時^ニも相^ハ離^ルる事^ヲ叶^ハぬ^レわ^レざ^レら^レば^レや。故^テ天^ノ朝^ニ仕^テ奉^ル。天^ノ
下^ノの大^ニ政^ヲ執^リ賜^ヒ。諸^ノ圀^ノ小^シ多^ク。百^ノ官^ノ人^ノ等^ノの此^ヲ分^テ持^テて。治^メ
給^フ事^ヲある。下^ニ風^ノ小^シ多^ク。それ大^ニ政^ノ小^シ法^ヲ式^ヲ取^リ。此^ヲ一^ニ
小^シ循^ル由^テ己^ノの身^ヲ々^々分^ク々^々從^ヒ。平^ニ伏^シひ奉^ル。事^ヲ小^シ
て皆^テお^シお^シよ^シ歸^ルる。か^クの如^ク故^ノ家^ニも^シ小^シ。上^ニ代^ニ
と^シめ何^ニお^シて^シま^シづ^ニ第一^ノ神^ノ祇^ノの御^ノ祭^ヲ重^ク立^テ給^ヒし
御^ノ事^ヲ。後^ニ宇^ノ多^ノ天^ノ皇^ノ御^ノ製^ヲ。天^ノつ神^ノ圀^ノつ社^ヲ。いと^シひて^シぞ。我^ノ
葦^ノ原^ノの圀^ヲ治^メる。或^ハ人^ノ歌^フ吾^ノ圀^ヲ。いと^シめ尊^シ。天^ノ地^ノは神^ノ
のま^シめ^レ祭^ノ事^ヲ小^シ。と^シみ玉^ヲと^シめ^レ天下^ノの神^ノ社^ヲ。
古^ク程^々々^々朝廷^ニと^シめ祭^ラせ賜^フ御^ノ事^ヲ小^シて。諸^ノ圀^ノの小^シ社^ヲも
て^シめ。それ圀^ノ守^ヲの承^ルて。祭^ラれし事^ヲも^シ。云々。中^ニ頃^久し
た兵^ノ亂^ル小^シ依^ル。天^ノ下^ニは神^ノ社^ヲ。大^ニ小^シ荒^レ廢^ス祭^ノ典^ヲも棄^ル。或^ハそれ

給^フ事^ヲある。下^ニ風^ノ小^シ多^ク。それ大^ニ政^ノ小^シ法^ヲ式^ヲ取^リ。此^ヲ一^ニ
小^シ循^ル由^テ己^ノの身^ヲ々^々分^ク々^々從^ヒ。平^ニ伏^シひ奉^ル。事^ヲ小^シ
て皆^テお^シお^シよ^シ歸^ルる。か^クの如^ク故^ノ家^ニも^シ小^シ。上^ニ代^ニ
と^シめ何^ニお^シて^シま^シづ^ニ第一^ノ神^ノ祇^ノの御^ノ祭^ヲ重^ク立^テ給^ヒし
御^ノ事^ヲ。後^ニ宇^ノ多^ノ天^ノ皇^ノ御^ノ製^ヲ。天^ノつ神^ノ圀^ノつ社^ヲ。いと^シひて^シぞ。我^ノ
葦^ノ原^ノの圀^ヲ治^メる。或^ハ人^ノ歌^フ吾^ノ圀^ヲ。いと^シめ尊^シ。天^ノ地^ノは神^ノ
のま^シめ^レ祭^ノ事^ヲ小^シ。と^シみ玉^ヲと^シめ^レ天下^ノの神^ノ社^ヲ。
古^ク程^々々^々朝廷^ニと^シめ祭^ラせ賜^フ御^ノ事^ヲ小^シて。諸^ノ圀^ノの小^シ社^ヲも
て^シめ。それ圀^ノ守^ヲの承^ルて。祭^ラれし事^ヲも^シ。云々。中^ニ頃^久し
た兵^ノ亂^ル小^シ依^ル。天^ノ下^ニは神^ノ社^ヲ。大^ニ小^シ荒^レ廢^ス祭^ノ典^ヲも棄^ル。或^ハそれ

社頭ヤシロもあく絶タテえて。又存してもそれと分ワきばあど。總ツじう
神社ミヤもいみじた衰微ウツなるを。治平の御代ミコトは復カしては。御再
興ミコトのめしめ在れど。猶あまぬくは御手ミコトれ及オむざは小や。今
小至コシはまで。ただれとふまゝれるの多オホなる。いゆめく歎ナガ
のはしき事ぞ。今時總體大名の領内ミヤに神を祭マツルめ給ふさま
も。たゞ戰國の頃コトは風小て。たろそかある事あり。今世國
家の繁昌イハレ諸大名の盛大イハレなる勢イハレ小應じては。神社ミヤもいのか
ど興立イハレし給ひても。宜ヨロした事あり。神國の實ミヤ小め似ニて。神
社の衰ウツたり事あり。返カはく歎ナガ加はしきよとれど。抑ツ神を
敬キひ祭マツルる事あり。たれめとく知チると事小なるも。はこと

の道ミチは根本モトの子細コトは志らばる故ユ。世人セに思ふやあるを。
猶ナホ甚イなるそのれど。今かくめでたき治平の御代ミコト。久キウしく續ツ
きる小付ツキて。大名方ナマもいとく。領内ミヤ々々ツツに神社ミヤを興立イハレ
し。厚アツく祭マツルめ給ひ。殊ツり式内シキに社ミヤあどを。御自身ミコトもをゆく
御參詣ミヤあるるを。御事ミコトあり。殊ツり又尾張オウ小熱田アツ大神ミヤ。紀の國
小日ヒノ前ノ國ノ懸ノ兩大神ニ。出雲ヒノは杵築キ大國主ミヤ大神ミヤあどは類タ。其外
もかやうは。殊ツは由緒ユまはは。大社ミヤも。あちさら其領主
領主ミヤは。大切アツ小厚アツく敬祭マツルし給ふる事あり。むのこ神領ミヤあ
どは地チめ。中頃ミヤの兵亂ヒも。みり奪ウひ取られ給ひも。今を大名
の領地ミヤとあきる所多オホなり。それ御冥加ミヤのためむ加カり小

も。おちざり小き有まぢき事あり。其外御武運長久の御爲
小も。国内安全の爲め小も。五穀豊登れ爲小も。必は神を厚
く祭と給ふ。御政あらまほしくおむ。はて又領内村々は産
土神。城下町々の神社おど。領主とゆ祭と給ふは。その神社
小きあらばとめ。命令は出されぬ。其所々の神社を。随分大
切に致し。神事を。麤略小致はまじたをしを。常々慰勸ネモゴロ示
し給ふるは御事あり。然る小當時を總じて。神社神事おど。
上の取扱甚おろそこの小。村々町々は神事おどは。假令は
徒事のやう小心得。此を押し軽くするやう小。いひお
け。下々小てめ。神事は物入多なき。無益は責のやう小心得

る者めあふき。皆甚じた非事あり。何事め神の御恵。御守
り小あらでき。世よとた事を恥し。困窮して苦しむば。いと
いと神を厚く祭るは。お事あり。然るは世に儉約といふ
ぞ。おづ第一。此神事。或は先祖に祭り。省略せむとほるは
いの小ぞや。抑今世上。一同小。次第々々小。華美なり。おめ。奢小
長じたる事おき。それ小准じ。神事。或は華美なり。丁寧小
まぶるなき。あたさまおあり。己の身分のみ奢りを増し。神
祭る事を。増さばして。いの。おあり。縦令身分の事を
ぞ。昔小加るして。萬省略にせめ。神事のみは。次第小加る
増さむこそ本意ならぬ。又神事小風流俳優おどをれし。或

酒を飲み遊ばず。無益な事と思ふも。大小非事あり。神は物を供して祭るのみならず。人も同じく飲食し。面白く賑はく。樂に遊ぶは神を悦び給ふ事あり。おれらの子細も。通例の學者亦神道者など。め夢小も志らざは事にて。世間共。大小了簡違はる事あり。總じて世間の人れ。を死す。簡と思ふた。みち唐流の理屈は故小。其中よを誠れ道理小。叶ざる事も多し。領主たは御方。並小役人中など。め。困の爲を思ひ。災害發らば。凶事無く。上下共。安全小榮えて。長久からむと。願ひ賜を。おれらに根本の所は心のけ。大切はゆるな御事小こそ。と説れたるが如し。はて神祭

の事。委て分て。四の別あるは。一。恒祭朝夕は拜禮。はと四時。恒例は仕奉るをいふ。此は平生小受賜をれる。御大恩は辱み。謝奉れるあり。二。小祈禱。時。臨きて君父を。始め。他人及我身の上は事。請祈申はをいふ。三。小禍難を。被攘ふ。いふ。四。小報賽。已は福祥は賜れるは。報謝し奉る。いふ。大加と此。四件は約るるなり。万に陰陽家小て祭。系神あり。佛氏外国等は神あり。天野信景の。此は事。詳小論ひ。皇國は生れたらむ人。神皇は系記は審小し。諸社の本基は考。正にる。然らば。空に巫風俗流小。陥溺して。正路小歸る事。知は。のら。ば。努力。此を。努め。と。噫。顯

密の僧家。本地垂迹小異説を立す。胡法を以る。我の神祇を祭る。親鸞の門徒を厭離穢土れ教小傾き。宗社の神を外小し。日蓮の徒を爾前勸請の邪義起して其神を贖に千座置所の祓を科にとめ。豈其罪を贖ふ小足らむや。愚夫頑婦尤責る小足らび。士大夫と雖も亦彼を誣謾せられ。惑溺骨髓小入。死に至るまで悟らび。邪術街小満。我神祇を媒贖に。豈此は憎惡に處のらざらむや。せめ云。ふか説まはし。數陪あれど。そを別り著せる。學柱。天道階立。まゝ次篇小記せるを見らむ。

○とね

とこや。阿ことね。志里わくは。

もやれまぶ。うとあふれ。

人の生れお。れ心やいふ物。極めて甚とき物ある。其元といふ。皇産靈大神の賜われ。靈魂よて。それ靈魂の萬小思惟を凝志むる。官府心といふ。此の心と。上小め申せる。神教小。赤心と詔。好は如く。元いとく。清淨く麗く潔く。微妙れ至極ある物小。世に寶ちふ寶の多た中。小め。赤心のみぞ。二かく上。おな寶物。た有る。はて魂れ名義。玉奇火小。此物。我人れ生れ受し。初小。風火を以て産し。成結びつけ。賜をりて。固とゆ。幽界小。隸たる物。ま。此は分ては。和魂荒魂と稱ひ。其中小。自ら小。仁慈。禮義。信智。勇。あど

云ふ物を含こ有る。其質い。云ぞ天日の姿ふして。白玉明鏡の如く。光彩の如く。自ら瑩立れど。彌まほしく。明小麗く。照映いぢるま道理小く。それ靈智だ小曇らば。世の事物小ふれて。善惡是非知分る事。かれ耳も美聲も聞むや。目も美物を見とく。口も美味も好み。鼻も好香もかぎたま。如く。自然小生れつきて。有物おれどめ。此目や。口耳鼻。心魂。これ下役人よ。外とゆり入來るを待受て。皆心魂小告上る役人かぞえ。それ告事をせくと。思案して。此を使令にるま。心の職分小て。此の是非邪正の分る。界おれど。我と我心をとく固く守慎とて。下役人小のみ任せ置るま。小あらば。魂

神も。正く天。皇祖神とゆり賜りたる。一身は主君おれど。能く此を苦傷しめど。我君が縁といぢき仕奉つ。疑をした事有ぞ。師友小問正しおとて。それ邪の非の正の是のたと正明めて。万事お行ま。耳目。口鼻おどの。下役人の主る嗜欲も。自ら降伏して。我ま。お働く事を。えせざはあり。漢人も。伏し易く。人心を降し難し。谿壑も満易く。ちてそぬ心志を。人心も満難しといふも。此嗜欲を指て也。ちてそぬ心志を。縦小して。耳目。口鼻おどの。下役小のみ。打任せ置てを。譬は。一國よてめ。家老用人おどの。役人のみ荒むを。びことて。其主君も。蔑如小し。いぢし。の君も。大馬鹿者と爲往。下情も。流通せば。善惡邪正。愛惡是非。め顛倒して。それ仕置の當ら

ぬ故小。上下万民各、それ所故失ひ。争亂止む時あきごの如く。
かの天日御光、小め比ぶるま。美玉明鏡も、搔曇とてき。尾
石や異ある事あまの如く。惡事をのみ行ひく長じぬれだ。
漸々小それ自然の性れ如く爲ゆ。後々は、大惡小陷るあ
ふ。此職と志て、妖魅の爲小。欺罔あれたる小ぞ有けふ。古歌
とるく、生れつる身れ、うまこはを、徳ら小成は、我グ心あ
月の入ふ山小心ま、送ど入きて、やみある何とれ、身をい
よせ。又善心を養ひ立て、愛惡邪正をとく辨る。善事のみ
故行す。後いそれ常小自然の性を爲て、決至善人と爲
ふ。此善き正き皇神は、幸福を與ふ賜えは、所以なるを。神代
のえらばきある、石あみづ、千年は、後も、汲むとしも、のれ、石
あみづ、小ごらじと思ふ、我グ心、人あそ知らぬ、神やうくら

心、已小云る如く。それ本源故、溯り求め、赤心を黒心と、二
の派流とす。末小至ては、かく遠く違ひ往く、小を小く。毫釐
の違ひ、千里の謬と爲れるもの故。神代とゆ、天皇祖神は、
尊く辱れ教辭と云ふ神語あゆて、此善道小、面向しめ。惡
道は、墜さし米志とゆ、大御心小。ねもぶる小、此を敷施させ
給ひ。御世々々の天皇め、薄く厚く、大御心故用おはせ賜ひ
し。かゆ。此を我古道のみ小限らば、西土小傳すさせ賜ひし。
玄家れ教を初め、諸の教法といふも、大かた穢心を去て、清
心子復は道とゆ、他と。何らじをぞ思ふ。雨森東が語小、天惟
有異、自修不一とめ、聖賢千言万語、無非存、天理而過、人欲大
藏一部、止是修菩提、而祛煩惱とめ云る。げ小さは、るし、或物

小心を境カ小サさるレ縁ハ引カされク。鳥ト小サ紛カき動ク。その小
出シおカり念ト情トとレ譬ハ風ト起ル。波ト如シ。物ト思フ念ト波ト如シ。物ト見
て物トの欲カまキ物トを風ト如シ。欲ト思フ念ト波ト如シ。物ト思フ
念ト休ム。波ト静シ。本トの心ト静シ。念ト波ト如シ。物ト思フ
必ズ六ト塵ト入ル。來ル六ト塵トの風ト起ル。六ト根トの波ト立ル。事トれシ。故
小ト上ト智ト上ト根トの心ト本トの心ト攝シ。治シ。念トとレ修シ。めシ。下
根トの者ト外トの心ト立ル。念ト佛ト題ト目トの情トとレ念トとレ遷シ。せシ。めシ。下
六ト塵トは風トを防グ。妄ト想トを出ス。らシ。むシ。業ト惡ト念トをレ遷シ。せシ。めシ。下
た全ク方ト便トふレ。悉ク偽トの勸カめシ。ともシ。云フ。已シ。物ト茂ト。卿トめシ。俗ト人
た閑シ。居シ。て必ズ無シ。事トふレ。だシ。惡ト念トをレ生ス。まシ。るシ。ものトかレ。だシ。念
佛トはシ。るシ。いシ。とレ死シ。事トかレ。めシ。とレ云フ。るシ。まシ。るシ。のトいシ。でシ。人ト性トはシ。元トとレゆシ。善
博ト奕トめシ。已シ。小ト勝ル。れシ。とレてシ。のト意ト小トふシ。いシ。でシ。人ト性トはシ。元トとレゆシ。善
きちシ。ふシ。話トを語リ。出ス。むシ。小ト東ト遊ト記ト。加ト賀トの飛ト脚ト。金ト子ト二ト百ト兩トは
預シ持シ。てシ。京トを登ル。小ト江ト州ト河ト原ト市トをゆシ。輕ト尻トの馬トはシ。やシ。とレひシ。搜シ
木トの宿ト小ト泊ル。馬ト方トを河ト原ト市トに歸ル。馬トはシ。まシ。るシ。はシ。洗シ。をレむシ。とレ
鞍トを解シ。しシ。小ト鞍ト下シ。とレゆシ。財ト布ト一ト出ス。てシ。金ト二ト百ト兩トあシ。りシ。馬ト方ト大ト小

驚オドロた。今ノの飛トリ脚ヲ取リ忘ワスれたシ。ふシ。小トふシ。そレをレてシ。其ノ儘ト搜シ。木トを走ハシ行キ
き。かレ。れシ。泊トまシ。るシ。宿ト小ト至ル。對シ。面シ。しシ。委シ。とレ問フ。ふシ。相ト違フ。かレ。をレれシ。だシ。
其ノ金トはシ。返カ。しシ。々シ。るシ。小ト飛トリ脚ヲ死シ。たシ。るシ。者トの。蕪ヨモカ。已シ。あるシ。心トちシ
とレ。悦ヨロコの餘ト已シ。小ト行キ。李トをゆシ。金ト子ト十ト五ト兩トはシ。取リ。出ス。馬ト方ト小ト與ア。子ト。
若シ。此ノ。二ト百ト兩トかレ。くシ。バシ。我ガ。一ト命トを失フ。のトみシ。おシ。らシ。ばシ。親ト兄ト弟トまでシ
も。罪ト小ト至ル。らシ。むシ。されシ。むシ。そレ。れシ。高ト恩ト。中ト々ト詞トのいシ。ひシ。盡シ。はシ。るシ。まシ
あシ。らシ。ねシ。どシ。めシ。先ト當ト座トはシ。御ト禮トまでシ。小ト贈オクリ。奉ル。とレ。涙ナミダを流ナガ。しシ。悦ユキ。ぶシ
小ト馬ト方ト大トを驚カ。まシ。しシ。顔カホ色イロ小トまシ。そレ。かレ。とレ。金トはシ。そレ。かレ。とレ。小ト取トリ。納ヲ。
賜タマ。ふシ。小ト何トの禮トをいシ。ふシ。事トはシ。有ル。をレまシ。とレ。手ト小トだシ。まシ。取リ。らシ。まシ。色シ
色シ。小ト拵ヨシラ。子ト云フ。どシ。めシ。更シ。小ト受ケ。びシ。てシ。歸カ。らシ。むシ。とレ。夫ト。縁ト故ト。止ヤム。事トはシ。えシ

び。十兩をゆ段々減ち。終は金二分として。せ免く是計を。我心の悦ふれを受賜ふ。ほし。さ無くては我心も去み申さ。べ。今宵め寝がたしと。理詞を盡して云。小ぞ。此金を受申は。程ならば。二百兩は留置は。かく返申は。のらた。聊もても。謝禮を受る。我心あり。更さ。とて餘義なく宣好。バ。鳥。目二百文は賜は。はる。此を今夜休むるを所を。是まで追。かけ來れ。系賃錢か。とせ。二百文小酒を買ひ。其家の人。小ふるまひ。我も酔ち。と吞て歸ら。び。と。飛脚を感小。堪か。ねて。そ。た。い。の。ある。人。て。坐。は。を。問。ふ。小。名。ある。者。は。非。交。又。何。一。知。ま。は。者。小。め。あ。ら。交。只。我。が。近。所。は。小。川。村。を。云。

小。與。右。衛。門。を。い。ふ。人。を。して。夜。お。と。小。講。釋。あり。て。某。め。折。ふ。し。行。ま。う。聞。侍。に。し。小。親。は。孝。を。盡。は。る。し。主。人。を。大。切。小。失。る。者。あり。人。の。物。を。取。ら。ぬ。者。あり。無。理。非。道。を。行。ふ。る。の。ら。び。か。ど。い。ふ。事。常。々。語。賜。ふ。小。依。る。今日。は。金。子。も。我。物。は。非。ざ。れ。だ。取。ふ。る。は。理。を。し。や。心得。し。よ。で。れ。事。と。云。捨。て。歸。す。ぬ。此。を。熊。澤。次。郎。八。聞。て。眞。の。儒。者。あり。と。直。小。川。村。子。往。て。固。請。て。弟子。を。成。し。と。載。した。ゆ。開。散。餘。録。中。近。江。の。人。あり。京。師。葎。屋。町。一。條。邊。小。今。ま。その。宅。地。あり。或。時。竹。轎。小。乘。て。江。州。を。ゆ。京。に。到。る。道。中。ま。て。竹。轎。小。乘。を。の。ら。轎。夫。小。性。善。良。智。良。能。の。事。を。話。せ。れ。だ。心。か。き。轎。夫。も。落。涙。し。う。悦。び。し。や。あ。む。と。云。ゆ。此。人。は。年。譜。小。慨。然。と。して。伊。勢。小。參。宮。せ。る。を。見。れ。だ。儒。中。ま。め。づ。ら。し。く。鉄。中。の。瑋。々。者。小。や。と。思。ひ。し。よ。翁。問。答。小。據。だ。林。道。春。が。餘。唾。を。受。て。彼。吳。

泰伯が後かど云、妄説を吐く。熊澤伯繼、物茂、卿が嚆矢と成
ふ者なれど、區々の小善ありとめ、そを取観、小ハ足らざる
か、窓のまさび小。延文四年、京の商二人、江戸よ下し小。阿部
川を渡りて、一人旅金、落たりといひて、共小立返りて、河原を
あかよみ、那と尋さほとひきる小。いや若き男走來て、若し
や落し物、給する小は非ずや。それ袋を我等拾ひぬれど、
主を求めて返むとて、急ぎ來といふ。此を思ひとらばる事
のれ。我友川に渡りて、十五、金、落しぬと云、中、小友來りし
のど、其由、語りて、それ金少許、贈らむと云、予、いやを
此を拾ひて、家小歸りて、見せられど、父、大小怒りて、何くと
盗に來るぞとて、打擲せむとせし故、其由を申せば、主知

れど、やて、人の落さ、にを紛ふ。其人、尋ねて返むと
思え、びて、持歸りぬるを、即盗かゆや。追出し故、足を空小
志て、主、尋出ぬるに、幸小しと返しぬれど、親、責を免さ
ぬ。是、過たふ喜ひあし。はれど、悦ありとて、酒肴、調りて、
二人、持成しきるに、何れめ、感小堪のねて、其の男と共に、
父の所、小往りて、それ由、述禮の爲と、金を少々、贈らむを
いふ小。中々、肯じ、詞、明く下ぬ。阿部川の村老、此を奉行所
小告る。松浦氏、褒美、やて、物、賜りし。江戸、小め聞
えり。賜物ありて、殊、賞せられける。又元祿の初、中山勘解
由、盜賊、暴徒を捕て、安靜せし頃、向溝、八左衛門をいふ、俠客

あてて。捜求られ々。同名の者疑は受て。禁獄せられき
る小彼。八左衛門初を影に隠しける。此を聞き。我故小科
あま人改刑せられむ様。那しや。自訴出て。某こそ御尋
向溝小て候。急小彼者を免し給。予を申ひ。先小囚へ置
し。八左衛門改呼出し。問き。答るに。我こそ御尋の者。よて候
予。只今よて。何卒申し。逃むと陳候。予ども。彼者改罪小落
して。本意からば候。彌我を刑し給。予と申ひ。小中山大
感じ。八左衛門の舊惡免に。る者小非。然ぞめ義を立
て。堅く守る所勝れたる上。以来惡事。ゆるめ思われ。先
向後を慎め。とて。二人やも免し歸され。又奥平傳八父

の仇隼人改討し。始め傳八幼少。小て。主家改退し時。予
一味の族悉く立退て。傳八の成立改待。や。其中小一人の
士。妻を稻葉丹後守。れ家士の女。あゆ。れ。預置を。小。或
時來。存。る旨。あ。き。離縁。を。請。し。何方。も。再嫁。して。親
君。れ。苦勞。小。成。ら。ぬ。や。う。小。有。ほ。し。や。云。だ。多。年。睦。じ。く。志。つ
ふ。中。を。俄。小。左。様。仰。あ。る。き。大。志。有。て。の。事。か。ら。む。さ。も。無。く
て。徒。小。暇。給。と。て。は。親。小。向。ひ。う。申。分。あ。く。候。故。小。其。趣。を。語
て。た。る。と。わ。ゆ。あ。く。云。は。夫。も。包。み。が。た。く。實。き。一。味。の。義。あ
れ。だ。五。三。年。中。小。た。大。事。に。及。ぶ。ほ。し。其。時。を。討。死。又。刑。罪。よ
あ。ふ。べ。し。御。身。き。若。き。身。い。か。ま。て。め。流。浪。し。と。親。君。に。も。て

あつかえれむ事。傷ましくて申さふゆと。言ける時。妻を泣
泣立入る。元結のきをとめ髪を切る。御利運ふる御目も懸
ふまで。此髪いひ申はるじを誓ひる。泣々別れを言。かく
て年月経て仇討す。彼士も助太刀あて功成ぬまば。來々
る小元結れ間とめ髪のご出。元結を其まゝ有こと。細井
廣澤の語ることといひ。新著聞集小。武州榛澤郡ひ小や村の。
庄左衛門といふ者。耕作に出て。狼よくを殺されしを。二十
歳計の妻。口惜ぶ事小思ひ。九尺柄れ手槍を提げ。方々と尋
求めしに。或畔小大れる狼伏し居たるを。夫のかと死と悦
びいさみ。件の槍を取直し。咽とめ上り突立し小。狼奮ひ怒

て。起上らむとせしかど。中々槍を放とびし。聲を立け
れど。人數多馳來ゆ。終り打殺してけり。舅其志の貞節を感
じ。智取て家をつのせざる。ると漫遊記よ。明和六年六月
十一日の事あり。若狭国三方郡。西津村と云所小。小松原角
左衛門といふ者。娘つあと云ざる。全郡の刀禰茂太夫
といふ者の家小仕子。兒の抱守あて居る。年々十四小あ
むれさける。あふ日夕あむるとに。外へ出。主の子をだ背
負て立ある。居る。病犬の走來て。負る子を喰むとに。容易
く逃るくめ有ねど。主れ子のみ大切し思ひぬき。早く前
小抱き取り。懐に押かくし。あむら。匍匐て伏しけり。犬も思

ふよ、小。それ抱守の膊腹に喰破。猶も喰むと云るを人
のかけ付て叩け。犬も逃去せぬ。さて勞を乞ふ。へて主
家小連行。いの小と問ふ。い。苦しきかゆ。はまめ此子を
何として佐けしと問ふ。己御家小參る時。親小て候ふ
もの、云。教するは。御愛子に抱き守て仕奉ら。唯心を加
すてかじづき奉れ。聞し事のみ思ひ。日頃心は盡し勞
を奉りぬ。今日犬の來て喰むとせし程小。我身喰るる事と
も思ひ廻らさ。唯懷小隱し奉ら。過ちかおはさまごと
思付た。糸のみかゆと申。借見る中小。身うち腫ふくれて
苦しきを乞ふ故。人し。彼が里ある親小告やる。小松原の

妻來て。我娘に病を問ハて。お。御愛子。いの。おはさま
ま。過ちや。賜え。ば。い。問。す。は。ぞ。い。み。じ。か。ゆ。き。る。か
くて醫師し。薬を飲せ。勞をゆとのどめ。終小。秋。は。成。り。て
死小け。主も我子に命の親かゆとて。厚く葬收めけるに。
因守聞。類かまもれとて。全八年六月。その墓を改め。ま。
街道のかた。ある。西德寺といふ。高く築た。忠誠の志を詳
に記し立て。又小松原小ハ。年貢は長く免し。寺小。白銀を
五枚賜。て。それ墓所を掃き清米。能命せられしを。かゆ。
此を時人傳小も見え。奇文欣賞小。千古奇忠。可壓倒。直前當
熊之馮昭儀。矣。貴嬪賤妾。寧有種乎。といひ。全書小。烈女阿藤
奥氏。ま。浪華。節婦某。阿辰。は。と。全郡早瀬といふ所小。いと
の傳をも舉。り。披見。る。し。

貧乏女有るゆ。名は糸と呼ひて。舅は年老たふ小仕。孝
極盡したるぞ。例無き操。小あむ。此女十四の年。此家よ來て。
舅姑のいとむつかした。心よ叶むを候。姑を死す。舅獨小
成て。後き便ふく。れをばらむと思ひ。殊更心を加。て仕
事きる小。舅七十。餘。て。老々。候小や。幼兒の如く。泣惑ひ。
朝夕に給物。おどめ。時。からぬ物。好と出。せむ。方。れ。事
度々。かれどめ。少も翁の言。ふ。た。の。を。ば。心。を。盡。さ。も。養。ひ。き
る。或冬の最中小。七日。おどめ。風。強。く。吹。荒。て。打。ち。ぐ。れ。海。上
い。や。荒。く。漁。夫。ども。業。小。怠。り。家。を。籠。り。て。居。ける。頃。翁。鮮
魚。を。給。む。と。云。ふ。ふ。小。い。や。心。苦。く。て。天。地。の。神。々。小。い。の。に

も。あ。て。鮮。々。た。魚。一。お。得。さ。し。め。賜。す。を。祈。き。る。小。そ。は。驗。も
か。く。海。邊。小。出。て。見。れ。ど。鱗。あ。る。物。も。か。れ。た。泣。々。家。よ。歸
候。小。翁。罵。呼。び。て。鮮。魚。喰。む。く。と。ぞ。泣。居。ける。に。近。く。居。て
て。や。の。く。お。ど。め。て。干。魚。鹽。魚。お。ど。め。た。様。を。作。り。進。め
け。ふ。小。さ。ら。だ。夕。食。小。き。眞。魚。給。る。さ。せ。と。と。て。朝。食。を。喰。ひ
ぬ。女。う。れ。あ。く。思。ひ。く。翁。の。尿。小。て。霑。穢。れ。た。衣。被。今。洗。ひ
あ。ぶ。ゆ。乾。き。せ。參。ら。せ。む。是。め。せ。や。く。己。の。衣。物。被。著。か。す
は。せ。臭。衣。を。井。の。下。小。持。行。て。洗。む。を。る。小。翁。れ。翔。り。來。く。何
の。目。の。前。小。取。落。し。き。る。小。魚。の。い。ま。ど。生。く。あ。る。の。躍。り。廻
候。ふ。と。き。ゆ。いと。嬉。く。て。見。れ。た。二。尺。を。加。ゆ。れ。怨。じ。ろ。と。云

魚也。只夢れ様覺て持歸る様々に調て參らせけむ。翁
も限なく喜び多し。そも此女の孝は盡しきるを神々れめ
てさせ給ふと覺えきるまると。何おと有る中小。此事は專ら
小人の云をやしきる程小。終は固守は聞給ひる。厚く祿賜
をゆて勞に給ふ。此翁死にめ。祭に仕る小生時。はさゆて。
懇懃にぞあつるとめ云ゆ。かれ氷上とゆ魚の躍り出。雪中
小筍を得しかども。漢國の昔談のみ聞居し。それ誠忠
は致せば。皇神の感應を賜える事かくれ如し。昭代著聞集
小浪華の富商某の子。小四郎といふ者。娼妓を相かき。遂
小買得て隠れたる所。住しめ。往通ひと妻と契りき。父

此を聞て大小怒。かゝは者往末量りかたしとて。勘當し
追出しきれぬ。かゝるれる小家は借りて。夫婦住々る。賤
た業小馴されぬ。暫しれ中。衰へ。朝夕の烟も絶々小成
行けれぬ。親友どちあわれぬ。ゆえに勞にききと。夫も限あ
れぬ。力小及むがた。いゝせむき云ふ中。一人いふ様。
かくては溝壑小轉びあむ。爰一の計略あり。丹波の篠山
那系豪家某に。女一人持たる。養子を望むと。聞
也。もと彼方行てむに。己の謀らむと云ふ。小四
郎頭をふて。我身は立むとて。妻を流浪させむ事。思ひも
とらばと。聞入らるけ。たある。妻物かぎ小立聞き。進出

て云やう。前より妾が爲り漂泊を給ふおと返はくも哀
く。夜の目め合は思ひ侍る。此儘ふまひやめて。路頭より立
ゆ外あるはごと。あさまさう歎きけるに。あど天道は棄ら
れ交し。か様は事承正ぬる上も。取急ぎ御計らひ給え
れかし。妾事ハ聊御心子掛たおふお。存びる旨侍れど。強ち
小迷ひ死する事め候まじ。此期は過して。後悔まとも詮
有まじ。返はく。此計略謝ひ申は様よと。諫めおふ。其夜
密に逃出て。初め勢免たる倡家小行て。事れ由聞え。身を
賣その趣は文子認め。其直を支度料は送りせれど。小四
郎その貞心を感じ。人目も恥ぢ泣きける。小友ぢ様々諫

けるに。此上をきて遂小丹波に至り。某の家小養をれける。
本より良きそだちにて。人柄賤しからば。行跡をろから
ね。明年婚禮をもまらざるに臨む。さびの小妻の事は思
ひ出らきて。心とからざれど。やかく小かおづけ。暇を乞
ふ。かれ家小め。いたく惜して様々止め々るを。強ち小辭
し返すき。舊友ども打寄て。父に乞々るを。おの氣ふる。一
且たそらろある事有つれどめ。本は人柄を。まめやか小
直かまば。免されと云やれど。元より外小一子とても形
く。老て日々小戀を思ふを。おからおき。急は呼返し。殊
に悦びあつめきれど。折をえて友ぢち。先の妻れ心を盡し。

二度身賣て。夫またたてゐるは事を語りて賤き女たれとも。貞心あるは得がとけきだ。家門繁昌は基あらむと云ふ。父も其志を感じて。とたよ計らひ賜えれと頼けれだ。やのて倡家小此由告多。請出にるま料いの程も遣ま修しや云よ。倡家の主人云るた。此女を初めとゆ人柄殊々勝きて。外々の者れ作法を正しきれだ。先小も惜しむのら遣しけり。此度も初よ増ゆと大事小務めくれし故。家も繁昌して悦び候まば。何方へぞ縁よつきたく思ふ折あらぬきだ。願ふてめあき幸ひと。身代のみとき言小も出に。數々れ錢別して。小四郎の家小贈とや家とあむやめ見ゆ。此小就と

思ふた。常山樓筆餘よ。平相国の寵娼妓王と云るた。近江国益須郡。北村の人あり。北村を水利の便とからばるに依り。相国小請て。溝渠を掘むと申されだ。下文は與りて。益須川とゆ。三里水を引きて。田小灌ぐ。其餘を湖水よ入。今小至て其民利澤を得るあり。輜軒小録にも。此文も今小傳れり。此事ハ記せり。下文も今小傳れり。益須川とゆ。北村。弓長矢長二水堀。通交修しとあり。廣き僅二丈計もや有む。土人此を妓王湯といふ。湯を小川の方言あり。今も尚老農ハ。妓王の忌日よ素食に。北村小妓王寺あり。妓王を葬るや云ひ傳りたり。妓王を娼といふとめ。民小利澤にるは忘るまば。家に肉食の君子。国家は輔佐る位小

在て賢小下^{アリ}。士を愛する道は知らば唯その門地を自負し。驕奢のみ事として。權威を擅^{オホキ}小し。民を利澤するおと成^{イキホリ}知らざれば。妓王の罪人を謂ふべし。明人の言小聲妓魁景貞婦白頭失守半生之清苦俱非。語云。看人只看後半截。眞名言也。室直清も此に似たる言あり。雨森東が云。莊子曰。能兒子乎。孟子曰。大人者不失其赤子之心者也。全以小兒爲言。あど云るを見て徳を孤からばせめ稱つるく。又必しも教訓を待てめ。それと性も自ら受^{ウケモチ}持てある事を。知るほくあそ。

○いね

いせやいづもやうぶにあの。

かみれおのげで。とまたもね。

あは天地間を論^{アヤクシ}ふ。人間上の小事件よ至るまでめ。目小こそ見え給えぬ。一事一物をし。天神四神。八百万神の御恩澤小因らざれば。更小有る事なし。夫第一子知奉らで相叶えぬ神を。万部伊勢に御鎮座遊ぶさふ。兩宮とて。内宮ハ天照坐大御神と申奉りて。現小拜奉る天日御国小坐まゑて。天原と千万国を多加は国の大君主と坐し。即我天皇の大御祖小坐まのみ形らば。皇胤ある源平橘菅原在原あどいふ。歴々たる諸氏を。皆其御末あゆ。外宮を豊受大神と申て。衣物食物家宅は三小御靈を幸あ給へる。甚神徳廣大ある大神小て。天上よて大御神さす小。千万国の人民

の爲小重く御祭禮を遊さるゝ御事あり此兩宮の御事を
中々一日二日小申盡はるるに非ぬ也。先師は著書等小付
て見ゆし昔の參宮を禁賜ひし御代も有し故今の如く此
を御禁ふたのみならず家々に御玉串をさす頂戴はる事
と成りしは此兩宮は御神の御高德を生やし生ふ凡て
天地間小何事と有ゆ依人民め万物め蒙らぬ物也。有る事
無かれ也必幽境とゆ神隨ふ志のせし免賜する神政小志
そ有け末はまど俗歌よいせし七度熊野牙三度御多賀様
牙を月參りとも伊勢牙參らぬ御多賀へよかれ御伊勢御
多賀の子もや孫もやや謳言ふ也道の大義小さへ叶はる

あり。今近く喩を取む小人たふ者も恐くめ天日を手本を
して言行を務めあや相違き更小有るまじくこそ。あづか
の御光明は美麗き事め其嚴威の甚じた事を世間小何の
勝る物の有らむ。まも天地間小有とある。千万物は生々化
化するも皆それ御大徳小非るあも無かれ也。至仁大慈め
又何の勝る物あらむ。はと極免て大きと極めと剛く健く
圓團小正直よ坐して。且瞬時め緩急給ふ事も有る事かし。
されど人も其心性を盡して。神精を明く清く。正く直く。潔
白して。毫末も汚穢たふ心を持たぬ。世れ爲人の爲小。仁慈を
致てむと志は立て。正大子公平小。偏黨はる事なく。日夕小

戒慎恐懼して。此故放肆ホキキ小せば。心志ココロを固めカタ。暫時シメシメは間もた
もみれく。大道まマと正業マサノクサを勢ツツめ勵ハカこて。止ヤミ怠オソクらばれど。才と
不才と。敏ヒカリと不敏との遲速ヒヤクを有アせめ。終マタは成就ケイジウせぬ事コトを。決キ
免マカて無ム道ミチ理リあり。此コトらに精セイ義ギを天道テウダウ階カ立タ小コ巳ミ神カミ詔ミコトノコト
徳トクを大道テウダウの志シをヲ始めハジメ何ナニくレの物モノをヲ伊勢イセ大御神オホミカミのノ大御オホミ
刻トキ天氣テンキ俄ヒトにシ曇クモるコト雷カミナリ電ヒトコをヲげシく風雨アメ去クさマしく草クサ木キ傾カたル
山川サンケン震ツ動クはル事コト半ハ時トキ計ケふレ其ソノ内ウチ勢セ川カハの方カタをヲ光ヒカリ物モノ飛ト
來キりテ此コト所トコロ小コ落ツと見ミえル所トコロ小コ風カゼ雨アメ止トまリ天テン氣キ晴ハぬレ在アる所の者
どモ不フ思シ議ギ小コ思シひ右の所小コ馳チ集ジめル其ソノ様サマ子コをヲ見ミるに庭ニ前マ
小コ天テン照テウ大ダイ神カミ官クワン比ヒ御ミ祓ハヒをヲ載ノせ奉り柳の枝をヲ結ムスぶ計りの馬ウマ形カタ
御ミ祓ハヒ並ナラ馬ウマ形カタ之ノ則スレバ信シ心シンをヲ發ハせ奉り柳の枝をヲ結ムスぶ計りの馬ウマ形カタ
邊ヘリ子コ鷹トウ狩カゲ小コ出デ御ミ勢セ殿テンの時當トキニ寺テラ境サカイ内ウチ神カミ明ミヤコ官クワン比ヒ由ユ來キをヲ聞ク召メされ
即スレバ此コト境サカイ於ケル御ミ勢セ殿テンの時當トキニ寺テラ境サカイ内ウチ神カミ明ミヤコ官クワン比ヒ由ユ來キをヲ聞ク召メされ

付賜ツキタマふ由今イマ申マカ傳ツタふといひ西セ播ハ惟ヒ談ワ實ジツ記キちふ物モノ小コ佐サ用ヨウ
郡クニの井野ノ扶サ持ヂ人ヒト大オホ村ムラ平ヘイ七シチと云ふ者あり大オホ神カミ宮ミヤを信
仰オホシまると一方カタから大オホ元ゲン文ブン年ネン中チュウの事を告げ奉り宣賜ツケたる夜ヨ門カド
番バン小コ行ユクてまどろみける夢に老翁オウ來キまる事コトを告げ奉り宣賜ツケたる夜ヨ門カド
此コト邊ヘリの神れゆ汝ニ天テン照テウ大ダイ神カミを信仰オホシまる事コトを告げ奉り宣賜ツケたる夜ヨ門カド
外ソトの藪に中小コ故コトありて大神カミ宮ミヤ比ヒ鏡カガミ埋ウマれ多有アり堀出デし門
て尊敬ソウケイを盡しといひて擧げ消に如く失小コき平七シチ目メ覺サトめし
て不審ソウシン小コを思ひ見ると前マエの夜子コ違チガふ物語コトバを告げ奉り宣賜ツケたる夜ヨ門カド
小コおと明アカる夜夢ユメ見ミると前マエの夜子コ違チガふ物語コトバを告げ奉り宣賜ツケたる夜ヨ門カド
いと奇キ異イの思ひをあらと前の夜子コ違チガふ物語コトバを告げ奉り宣賜ツケたる夜ヨ門カド
万マン一イツ堀ホリて無き時を亂れ心を抱く事甚シ以テ心シンを流し夜
依ヨ小コ三サン夜ヤ目メの夢小コ何ナニと言ひ翁來キまる事コトを告げ奉り宣賜ツケたる夜ヨ門カド
を感じと云フとめ尚ナ疑ウタガひを抱ク事コト甚シ以テ心シンを流し夜
中ナカかやうと云フとめ尚ナ疑ウタガひを抱ク事コト甚シ以テ心シンを流し夜
の明を待たる目メつけ衆シユウを穿つ意を深く疑ひ清水セイスイを以て清
任ニせて堀ホリを待たる目メつけ衆シユウを穿つ意を深く疑ひ清水セイスイを以て清
鏡カガミ現アる給ひけれといひと心を深く疑ひ清水セイスイを以て清
め奉り尊敬ソウケイしる後ノチ小コ柄カバあり銘ナガ山ヤマ小コ社シャを建て祝ひ奉れ

志斐語附錄上
四十

ゆ。おれを聞傳ふる人々。參詣して拜見。されど時を末世。及べども。神徳のいちぢるき事を感ぜぬ人ぞあるゆを。あてし由ま記せゆ。ちて出雲大神を。杵築大社小鎮坐。大國主大神と申て。幽冥世に大君主小坐せゆを。幽冥と。此の顯明世とゆ。いの小賢聖をいふ人よ。又至貴を人小てめ。武勇智謀ある人小てめ。此を窺見おと能てぬ域。形るは。只古傳よ因て。其大旨は。先師の深慮精究て。説明されし靈頼小因て。聊そは片端に。想像奉ふ事を得るのみ。おた。先神代の初時とゆ。我天皇の御大祖。邇々藝尊を。天下に顯明政を統主らせ賜ふ大皇小成。まじ。出雲大神を。万國の幽冥に政を統掌し賜ふ大皇と。皇祖天神の神詔小因て。

定賜するとゆ。貴人も賤人も。善人も悪人も。富人も貧人も。生る人き。必び此世に罷て後小冥府小參じ。此大神に御政事を受賜をらては。相おらぬ事ある故。兼て大神を深く信仰奉じて。常小幽界に愧ぬ様小と。言行を慎むるま。おと勿論小て。譬へむその幽冥界に状を。蚊帳の内とゆ。外を。見もれどめ。外とゆ。其内を。見えぬを。全理小て。大神等の御上とゆ。天地間に事物を。人の掌中の物。白日小見ると。如く小。看行まのみれら。人の心魂をも。火光に。見ると。如く。徹視し給ふ事おま。ば。悪事を行ひ難く。只管小善事善徳小。志堅め立つるま。おとは論お。善事善行ある人も。凶

事惡行の者も現世小ては心中に此を蘊有のみ小てき。其
現れ交て世終るめ有也。或は現小それ報を受るもあれ
ど。善人の不幸は冤枉を受け。惡人の幸福を受るめ有ると
ゆ。誰も皆恠思ふ事あきと。皆世人を此現世のみを眞世と
思ふとゆは失誤小。後世ぞ我人の眞世小て。彼冥府は參
向する時小ぞ。大神の至公至正の神政よて。それ人の平生
の善惡邪正。分明り此を聞召定めて。善人を此を正した
神明小召し使をせ賜ひ。惡人を此を邪鬼に部類小追退さ
せ賜ひて。神明たる靈魂を。天地を永久小富貴。又福祿を保
事は賜えり。邪鬼を永久小苦難をのみ獲て。此を免脱する時

有る事ふたれ也。まゝ善人は禍難小あふは。專此大神の深
き御旨小依り。百方は試た。その信志を鍊固め。大業は成
就をすしめ賜をむとて。御心志らびとゆ出し事小て。此
に信志を撓さば。彌勉勵と勇進と多。その能業は遂をふる
ま由。委た師説あり。實小古とゆ大事を成得た人。高き
短き品あそ有れ。艱難辛苦は嘗坐さる也。一人をこゝ有る
志をねし。そも中道小て。此を厭ひ憂ひて棄廢る也。百敗し
て折々ば怠るおとれ。務行ふと。君子小人。成と不成とれ
分所あてけり。古とゆ讒邪小人等。誣罔は因り。思ほえ
人君子等の御事。志をのさきいす也。出雲の大神也。それ

大本を掌給ふ大君皇小おろさせ。その細小の末事よ至て
て。其国々處々小鎮坐に産土神。乃と氏神の各此持分て。
御治め賜え。事小て。譬予て天下に大政を天皇の御朝と
て出ても。国々縣々小百官人等の有て。其々に持別て。御治
有ると同理あり。或人言小。君父を殺し。盜賊たふし。人倫小
背く事あらざ。公儀。或も領主地頭を踵を回らさざ。誅戮
を加予給ふ。是天下の常あり。然るに。さよては。惡事小もあ
らねど。日用の小事小め。道に背く事あれども。誅戮を上と
ゆ加予給ふ程よも至らば。されども。天道許し賜えぬ。日よ
も。譬へば。三間の路も。一間狭く成賜ふ道理ありと云予め。

寔小父は子に思ふも。君の民は見給ふも。此心有るし。云
は。然説小。産土神の氏子に見給ふも。亦かくは如し。は
れど。凡て善惡の報。死後小定る事と心著ざ。は。疎漏と
云。是。はて人間の此世小生れくる本とゆ。一生に内き勿
論小て。幽界小歸入て後までめ。第一よ。おの産土大神は。万
緒小御世話賜えれる事。委き師説。乃と近に慥れる証據
も多し。有て。已よ記せる物あり。然れども。何かと慈仁深た
父母も。教訓を受ぬ不孝れ子。せむ方。乃と勘當し。いかふ
る名醫小ても。薬め灸針をも用ゐぬ病小い。療に術なきの
如く。神明のは。事も。かつてえ知らざ。放蕩不拘の無頼は

小人の無狀れ行の甚き小至めても。産土大神の寛仁大度
に坐すも。遂小を此を厭嫌えせ賜ふとゆ。妖鬼のそれ間
窺をめて。其心魂入變りて。彌惡事にのみ長せしめ。現世
小て大逆を犯して。刑罰返も蒙るふをめまると至る事と
ぞ聞ゆめる。凡て世間小を。妖鬼の徒れ限あくと多く。繁行充
満て。それ群の蕃息ゆくを喜ぶ事と聞えて。正なる皇神の御
守ゆれ无き際を伺ひて。災害を爲して。それ群を引入むと
謀ふ由あきざと。とく此多心得居て。暫時の間小てめ。穢汚心
返ぞ持まじと。その萌生せむとせば。痛く慎み拒排ひて。赤
心小返はる事あつこのし。此、妖魅の事どもた。八十のくは
てれ次篇小。古今の事案を擧る

を見産土神も。唐土まると天竺小ても。城隍神をて。殊も崇信
はる事とぞ。此を辨妄書小記
せぞ。今も云えは鈴屋大人の歌も。をあしす小。
世は照とるま。日のみたま。つけし鏡も。伊勢れ大神。万あり
おし世のおとは大皇神おとは。大國主の神れ御こゝろ。世
世の祖れ御かけ忘るぬ。世々の祖も。己の氏神。己の家れ神。
を詠れ。塙囊抄小も。先和國子受生人。大神宮可參詣事と
勿論と云。己よ此國本主神明の王小と御座せぞ。各鎮守を
仰ぐ所め。并自餘の社人も。君小事つふは。以て法施をめ可
奉。但大神宮ハ。元來とゆ法性の神とし。其理を諸神小令
蒙。仍所々の鎮守靈神賞罰。併ら神宮冥慮也。仍近くは鎮守。

遠くは神宮の冥慮小不奉背様。振舞給るま也。其心向と
者。先其所神明小慇懃ネモコロ奉仕て。其餘暇イダヒ予ハ。他所の靈驗
も可仰。當所の鎮守小也。極て不法懈怠小て。他所の靈社
參詣せば。罰をぞ蒙共。利生も不可有と見た也。其趣神宮雜
事と云。祕記小も。人間の例を引て。我主故閣オキて。他人小隨
譬タト予た也とある也。師翁め論をれし如く。能も神祇の情狀
故伺得とる説小て。我の本主を閣ササて。他人小忠義を效さ
む小。いに本主の。此を愛憐イソクシム給ふるま理あらむや。はれど
異国の教を尊信し給る。聖徳太子故始免て。聖武天皇等
の。御子孫を絶果タエハテまし。近くも大友義統。松永久秀。高山友祥。

小西行長らも。皆

我主を關て。他人の主
小忠を盡せる儻成。子孫斷滅せるを。

く思ふる。畏れてめ畏れ。慎みても慎むるま事か加し。

序小いふ。山鹿素行が言小。我等事若年の頃をり。異朝の書
物を好み。日夜に讀み候故。近年新渡の書物も不存。十年已
前迄渡り候書物者。大方殘か。讀畢り候。此故小自分覺え
及ぶ。交聖人も異朝予ある出来候と存罷。在此段我等小不
限。我國古今に學者皆左様予心得。異朝を慕ひ學び申候。近
頃初て此存知入。大小誤り候事を知覺致。事小候。其譯を耳
を信じて。目字信ぜ。近き故捨て。遠きを取。候事甚。以誤り
小て。學問にるかどの者。此病ひか。者も無之候。殊小中朝
事實といふ書に記し候。予ども大概を。小記し候也。我
日本も天照大神の神道絶え。ほして。輔佐之臣たち。藤原氏
とても。世々小系統絶え給。て。今日小至り候者。唐土の如
く。亂臣賊子。不道を働き候事。無之故を以て。かゆ。是神聖至
徳。深厚あるが致。夫所小あら。交や。次予神代とゆ。人皇の十
七代まで。悉く聖徳の人君。天下故統御し給。ひ。賢臣能く輔
佐せられし。も。天地人の道を立。朝廷政務。固郡。れ。分別。四

民の作業衣食住冠昏喪祭の禮小至るまで各其中正を得
万民安く固土平小万代の規矩立て上下此道明らりか
し事を聰明聖智の天徳よほらばや況武道ヲ於てをや其
勇智此事を云えと神功皇后三韓を平げて奠物を貢せし
め近代小至ゆては朝鮮を伐り日本府を其地小設け武威
我固を攻るやいそどめ終一度も勝事取得ばされど武
具馬具刀劍等之制作軍法戦法彼等及ぶ所はあらば是
武勇の勝れたる小あらばや智仁勇此三つを聖人の三徳
あり今此三徳は以て日本を異国とを较量はる小日本遙
小勝れたるや天下中正君子固といふ事分明あり是我等
私言はあらば天下の公論あり獨己聖徳太子の異朝を尊
み本朝の事を忘まるとるに似たり然共舊事記に入鹿が亂
小焼失せゆといふ太子の述作ありと云も其全書世小あ
らそれ交と云るは彼頃の史さ小甚めづらし中朝事實
の中にいひのぶ事事も交まどめ大かとはとろふ他
儒の企及ぶる小非交あむ案予君臣上下内外尊卑の別
ちを何事小つきても常小をく心得て有るき事をゆけ

○むね

むかしのめいまもかはらぬ。

ひつきれみあげをみても忘れ。

天地月日の初れこと。乾坤初分。參神作造化之首と古事

記序小ある通小て。此の天地日月まよ有る諸万星も大

地も神代小皇祖天神の造化し給ひ。古歌子。あむ空濁

それ古も神ぞ知らむ。あむ委とは先師説を更りて。佐藤

信淵が説も有り。又天書神皇實録小も古傳ありて。別記

せる物。さて万物をめ作出て。人間に養育料小成賜をゆ。わ

きて人間小御慈仁を垂させ給ひて。有る物ちふ物の中

にて。第一多く神恩を受賜をは事ある。万国小その正き

眞古説は遺傳を以てしは、いづれも歡喜小堪ざは事あるは、
ちる由をも知らぬ癡愚蒙昧の徒れ。世小多多く古くめ神
代の事ハ説盤古れ如しとて荒唐の如く思惑ふ。僅小我
の六尺は體を以て聞見るに。渾て茫若を志て。夏虫の氷
疑ふ喩の如く限量め知られぬ故れ。頑陋心の失よて。家
は造化は始を成賜する。大神等の御上は。人間の限ある
智力小て億兆の者万世を経て。考究めても万一をも知ら
ざるは際非ざるか。此を井小座し。天は窺ふとも。貝も
て海を測とめ稱ひ。量は知らざるは。大なるものぞ。夫を
彼窮理者の説小てめ。常小日月五星。廿八宿等は諸星よて

も。東小出て西よ入るのみ見れどめ。此を視動小て。舟行し
て岸の移。月前は雲の西小疾走れ。月を東小走る如く
見るを全理小て。天日とそれ中心小安居し。動遷らば。五
星ちどは始めて。數十は緯星と大地を。皆天日周廻
志て。歲月日時は成は事ある。各大小遠近の差別ありて。
大地を第三の緯星小す。それ周廻一万里位。天學名目抄小
五千四百里とし。蠻方よて六千三百里。唐人を九万里と
は。皇國の古測を。一万五千七百五十里。今を。一万三千四十
六里とし。又一度を。紅毛を。十五里とし。蠻方小ハ十七里。唐
小て二百五十里。我古測を。四十三里七步半。今測を。三十
八里四分。ある。至大至重の物形ふ。十二時小運轉して一
晝夜を爲し。名目抄。東西相隔つる事。百四十里小。一
刻を差す。千百五十里隔れ。一時を差

東早く西魁し。六千九百餘里を隔れ
ず。六時の差ありて。東卯を西酉あり。
天の一度を進む行
き。黄道を南北二極の心より斜小連纏ひて。東西小至て。春分
秋分が成り。此時晝夜
相中分は。夏至の後を。漸々小南方より進み。冬至
の後を。漸々小北より進み。四時を交々相成して。周天三百
六十度。一周廻して。舊の冬至小歸るを。一年と成るを。若
地球小東西の運轉かぐだ。一方を常小日光を受け一方を
此を受る事かぐて。晝夜は分あるかとぬ。又南北小漸々
小企つ事かぐては。南北の半球より。冬夏は相變易は時か
くて。四時あるべき様形し。四時無くては。万物の程とく生
成はる道理あらめや。其他の緯星め。小き近くて速小。大を

遠く舒小。周運して歳時を成はる事。地球小比ぎて知るるは
ぬ。かく各その位處に布置。其所を得て。万古より變易かぐ。
漢人は千歳の日。至も。坐して致まると云る如く。千万年
を經とも。日月時刻。その交食をぬ。小曆算し得らまて。毫毛
も相違かたき。案に奇妙不可思議に。至といふべき。又廿八
宿等の經星といふ。め。千万星ありて。光曜あるを。皆日大御
神の御分魂に鎮坐に事え。角田氏の説に如きを。此を此
が中心を志て。周轉に糸緯星め有はる。それ千万星の固
固も。乃と高天原たる。北極紫微宮が中心を志て。數千万星
の朝全はる状小て。終古それ列を相亂る事なきとぬ。此を

推^レ。彼^レ小^レ及^レがして測^{ハカリ}考^{カケ}るに。天地自ら天地あるにあらず。
必^ズ天地を爲^レる者あらむと云^フ。舟^ノ車^も自ら成^レる非^ズ矣。此^ヲ作^ル
ふ者ある小^レて知ら^ハいと云^フ。如^ク天^ノ日[、]御^ノ圀^ヲ主^ト。昔[、]皇^ノ祖[、]
天神の天^ノ御^ノ柱^を固^ク建^テさせ賜^テる神^ノ業^ヲ小^レ依^テて。彼^ノ御^ノ圀^を凝^シ
固^クて。其所^ニ小^レ居^テ。二十五日餘にて自^ラ轉^ルる故^ニ。その至^ニ純^ニ至^ニ
清^ニ至^ニ剛^ニ至^ニ健^ニある。大^ニ引^カ力^ヲ小^レ牽^レれて。諸^ノ星^も運^轉し^て止^ミざ^ら
事^ハ。專^ニ小^レ此^ノ大^ノ地^をを^シ。皇^ノ祖[、]天^ノ神^ハ大^ニ詔^シ小^レ因^テ。圀^ニ生^シ坐^シ大^ノ神^ノ
の大^ノ空^をと^リ。天^ノ瓊[、]戈[、]以^テ。攬^テ運^シ賜^テるを^シ。晝^ハ夜^ハ小^レ轉^ル。
はと一年の大^ニ轉^ルも正^シく成^テ。さて後^ニ此^をその中心^ニ小^レ築^キ
建^テ。御^ノ柱^と爲^シ賜^テる。いとめ奇^ニ妙^ニある御^ノ神^ノ業^ヲ小^レ因^テ。終^ニ古^ニ

小^レ至^リて毫^モれ差^レ違^ハもか^レ死^ス事^と成^リしに。比^テ予^テ知^テ奉^ラれ。
又他の諸^ノ万^ノ星^の成^ル終^シし事^め。皇^ノ神^等各^々加^クれ如^シて。固^ク立^テ
賜^ヒきむ事^{をも}想^シ像^奉るは^く。又大^ノ地^を大^ニ活^ク圀^魂神^{とも}
申^テ。大^ニ活^ク物^{ある}の。それ大^ニ本^ヲ申^セ。皆^ハ皇^ノ祖[、]天^ノ神^の。微^ニ妙^ニ
不^レ測^カる。御^ノ神^德小^レ因^テ。成^リ出^タるに比^テ考^ヘて。有^ルもは^ク千^ニ万^ニ
多^クある諸^ノ星^の圀^々も。皆^ハそれ御^ノ神^德小^レ因^テ。成^リ出^テ。は^クて
各^々の御^ノ子^神等^を。其^ノ主^宰の大^ノ君^として。分^リ治^メさせ給^フ
事^も。量^知奉^ラれ。その奇^ニ々^ニ妙^ニ々^ニにて。玄^ニれ又^ニ至^ニ玄^ニは^ク
御^ノ事^も。言^ハ語^文字^れ。敢^テ稱^テ贊^奉らるるは^ク際^ハ小^レ非^ルるは^ク。故^ニ
小^レ皇^ノ祖[、]天^ノ神^の御^ノ大^ノ德^を。熟^ク想^テ奉^レ。大^ニ事^ハ語^れ。心^力の

及ぞばる所小幾許の大天地あらむもはと知盡にるる際
にあらざ。又少事故説也。目力の到らぬ所。一滴の水。一撮
の土。一草一木は枝葉小も。小虫の多く叢生する如く。か
は小世界のいくそばく有むめ測るはらげらるおと。此を
以て彼を参伍し。彼を以て此小錯綜して知るを。それ
はと一事一物と志て。有や有ゆる物も盡小皇祖天神の皇
産の御靈小因之。成らざる物をてき。絶て更よおきわざあ
るやゆ。此を諸人のかつぐ説る事あり。まよと黄帝齋居し
て。小虫を見れど。大山の如く。蚊聲雷れ如しとも。夏
草が焦螟といふ虫の眉睫を。おほ數多の小虫あると。龍伯
の上大囚ありて。幾千人は。ちまぐ諺小上見れを限なく。下見
の軍せる説も思ふべきし。

れを限なくを云ふも。寔はる説ぞ。或人の歌より上り上り限
下ある人を見ゆる。雨森東も。視於下而有餘。則起驕慢之
心。視於上而无窮。則生謙虛之意。世之自満足者。皆視下而
不自覺也。かく皇祖天神。又八百万神等神徳也。近も遠も古
め今め未來も。惟一日如毫髮の少差も坐々ぬ事第一。小日
月の御光小て。此を知奉に。如事を有じかし。叔然際限無天
地の悠久を世間小しめ。神代をゆ八年とも。万千秋之長五
百秋とめいふ神語有て。幽界小を殊ある年曆。さてを春秋
四時等の氣運ある由て。人おそ知らぬ。人間は時運の盛
衰風俗の興替等め。專此小關係る事とは見ゆぬものら。
そは委細きはまら。庸人に敢て窺測り得るに非るなり。

此由て先師の赤縣太古傳小説出られ將幽界とゆ直承
れる語もあり伊藤藤長胤を繼ぐ此小心付たる由小く畜簪
録小説あり其他似とれる然も時運盛衰風俗興替家因存
言を彼此と云る者あり 亾も共其根源を高天原小始ちく大坐まに天皇祖神の神
徳小出る事れまばその大道故拳々遵奉にる徒をその盛
衰興替存亾を世のちのとのみ安閑小手故懐にし傍觀し
て止るを小あらざ無手故出しとめ心力故盡にぞ惟神に
道小おむ有るそき風俗家因せめ小又人よ因る挽回恢
復にる期めり系例かれれに是を以多上代子天語連及
語部物知人事知人鹽土老翁かど後世小謂も
る教官講官のりて世人
故徧く務めて古道小面向のし免賜ひ後小外國に教をも

兼用させ賜ふ御代と成ても大學故設賜ひ公卿等も私の
學舎のて橘氏の學館院藤原氏の勸學院源氏の辨學院
和氣氏の弘文院菅原氏の文章院万と浮屠氏小め綜藝種
智院おど有しめ人才を養育して國家故治むる大用と成
し免賜をむせれ外形し此を先は大學始末略
とふ物よ委く記置り已小周人も
上智と下愚とは移らばと説る如く人小中等以下の生多
く善教もて導が善人せ成り惡さまに導げを愚人又惡人
せ成る習ひかきぞ此を性のみあらばその躰は強弱もよ
とかく三等ありと或人の云るもはる
去と小イニレハ往古とゆ神聖に教誨をもフシゴト慇懃小せさせ給牙承る
專此を據る事とぞ聞ゆめ依モハラ右等の事を和漢の事實を博
く援証するよてもヨレ後醍

翻 天皇の捕正成卿の謀を用給ひし小依々天下を恢復し
給ふる故彼卿語小從賜て終り天下を失給ひ後おがら
も奸賊源義満を細川頼之が諫よ從ひてかつく小其固
を保ち上杉定政を太田持資を殺し其固を亡ぶ故見々
知る後見し雨夜燈を青蓮院宮小や幼を宮中院内府通茂
公御後見おぼし小或時將碁盤のある故見多家司坊官を
呼て何とぞの様れたし小れき物を置るはしとふ事業
を本來惡むれど譬ひ有ても御年行々後を御心付て止事
も有る者おゆ此らささしも惡む事小非れど其事小馴き
空く月日を過し御學問の御志怠る者おれど悪き物おゆ
と云れ々ゆ誠小尤至極たる詞おゆ又宮よ出入去る者尺
八の名高を御目小懸つるに大事此器とて折紙おど付
たゆか々内府公御入有て是を誰業ぞかやうれ物御
目小かく事といふま柱小打あて返れく碎かれ々ゆ其後
尺八の主参ゆ々坊官おどの云ふ尺八の主少も苦うら
かれ私氣毒おゆと坊官おどの云ふ尺八の主少も苦うら
の仕合おゆと申しとぞ其子通躬卿も嚴ある人小おはし
けゆ人の後見おゆか々人をお付たき事おゆ豊臣秀頼公
小徳川公御對面の後本多佐渡を召て秀頼を賢人おゆ中

中人れ下知を受べき人に非父太閤の跡を續おむと驚
きて上意あり本多承ゆいや私謀小秀頼卿を愚小成申
さむ事いと安く候とて退出し秀頼卿の御臺所を將軍の
御娘おれど佐渡御臺所の上臈女房小對面して云都て軍
下を御坐せ御召仕の女房大勢おくと秀頼卿を日本の主
て御男子御誕生に豊臣の御血脈ある様小願ふ所おれ
む必美人を撰出しと申ふと御側小おれと若嫉妬おる
人あらぞ我等科よ申行ふと堅くおれと若嫉妬おる
近習小逢て秀頼公賢く御座おされ候事大御所殊外御
悦小候常々猿樂を御慰小成され候事大御所殊外御
の御心勞れ事ありて鬱症字御煩ひ成さるる御若年御
仕置の事小御心お掛られぬやうに成さるる御若年御
て御養生第一然る様ゆ由身小成顔よ云成々れど皆尤
聞受て秀頼卿色小聴ゆ猿樂を好く賜ふ仕置の事毛頭
知賜えげ下情を夢小も合点れくあお計あ終秀頼公
め中院内府公お如き人後見たりせぞ正信が計も秀頼公
る中院内府公お如き人後見たりせぞ正信が計も秀頼公

どめ大名を皆家老を初重用人の爲小愚小成賜予ゆそ
主君下の情を知り善を用お賜を己の恣に成かた故
予何小も志多主君の愚に成賜予と明暮心中願ふ事
漢同じ例不ぞ有るをいひ毛利元就ぬしが大内義隆諫
めて明君をとく家來を引またして威を家老小奪たれ
云々と云れしに聞きて滅し事を云む熊澤伯繼が今の
大名を家老用人小たまされ我因を皆家老用人の物を成
を知らば下の情露たかすも心付らばといひは徳川公或
てめ因を持たる小ハ有るに辨慶を世小勝まるとる者あり
時幸若が高館坂舞系を覽て辨慶を本多三彌進出さる者あり
今世子少加るるしや上意有るに本多三彌進出さる者あり
此様形る主君有るぬ申にるに辨慶を御坐あるに判官
あり又大名中振舞は席ふて辨慶はしき事をふ評判ある
よ木下肥後守が辨慶少も母しく御坐れし判官の料簡小
成らぬ私の家來を皆武藏房あり佐藤兄弟小を成申は
夫故予何とぞ判官小成申たく久しく心掛てもはど得か
らぬ口惜く存候と云れしに光政朝臣も似たる言ありと
め記せぬこれ教導小依て善惡賢不肖小移ふ事も風俗も
上たる人小習る事もはて人を上小云る如く万物は上首
考ふるまよふふむ

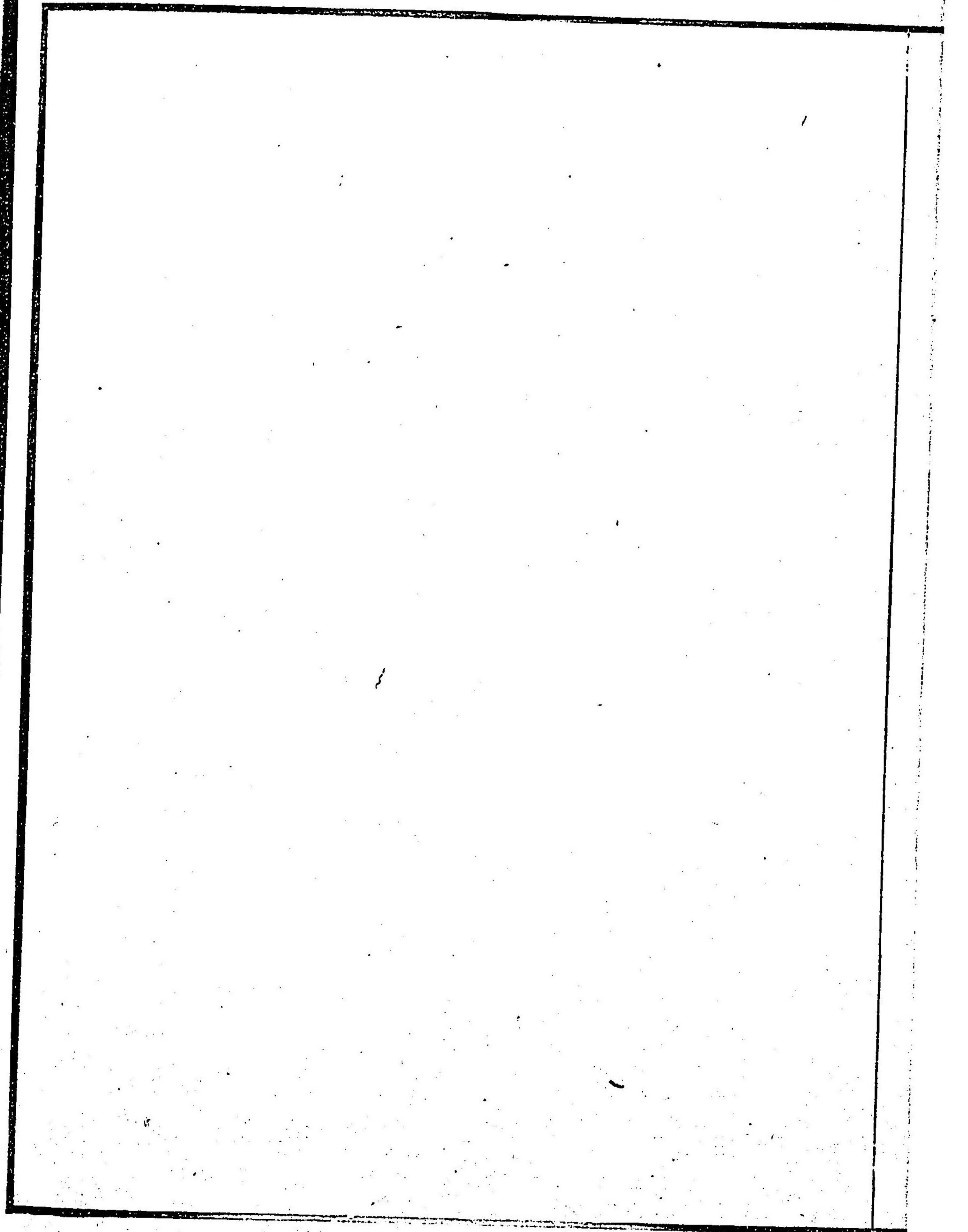
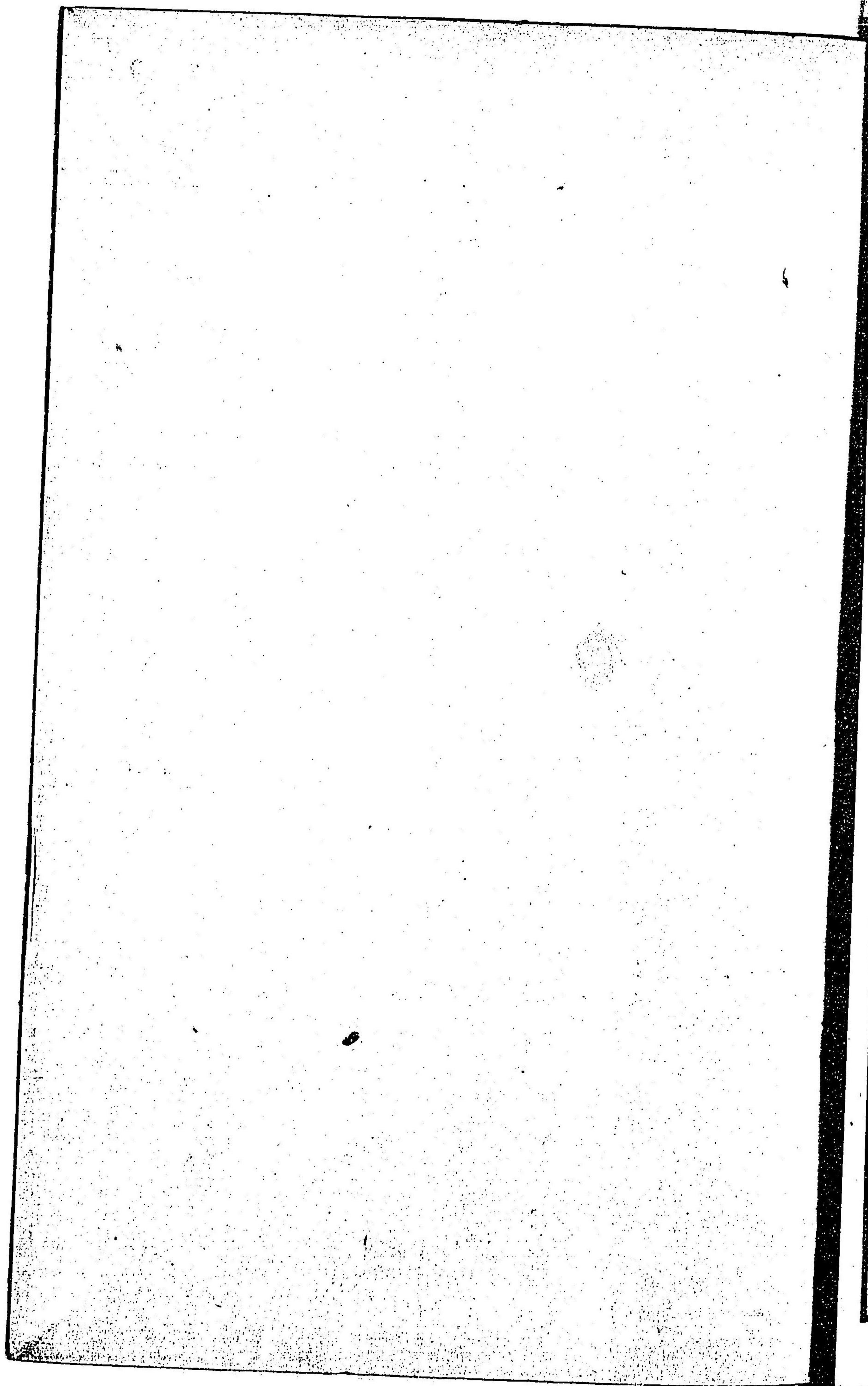
たる物也。天神の御定遊むさ家、事も古く小天地とめ云
て。頭を身體に上小か。夫は魂神の安ぶる處あるに天因
にて内邊小神境あり。皇神の大坐に小能相似。下體も地
小似。四肢百骸とめよ。その主宰たる魂神の万命令に聞
て。動止生活はるも。大か。皇祖天神は高天原小坐て。千万
因小め。各御子神等分使として。此を主宰せし免賜する
也。全道理ありかし。のれぞ皇祖天神も。その造化賜する
天地の生々化々も古往今來と。千万歳を経ても替らせ賜
ふ事として更小无く。我が天津日繼の御位も。天地月日と
共小遷賜ふ御事あり。おまは申までめ无く。それ御政を受

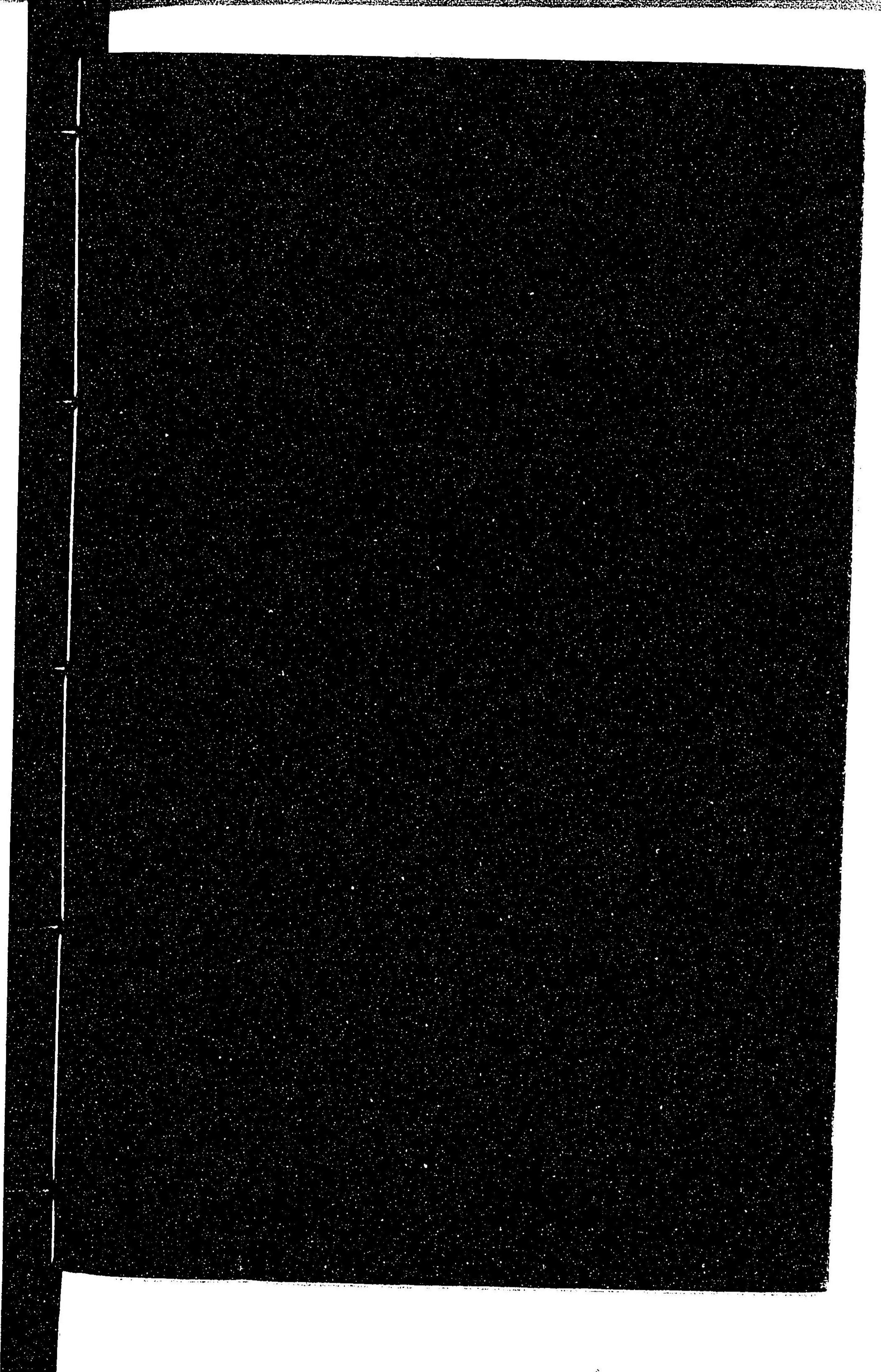
て生^{アレ}出^{イッ}る人等め。昔^{ムカシ}在^レの人を全く。皇祖^{ミコノ}天神^ノとゆ^ニ心^{タマ}神^{ミコ}形^{カタ}體^シ
を^シめ^テ小^コ御^ミ靈^リ分^{ワケ}布^ケ賜^レるも^トゆ^ニに^シあ^キま^スと^ク神^{カミ}隨^{ナガ}の古^コ
道^{ミチ}小^コ循^{ジュン}由^ユて^シ過^ヒ犯^スに事^{コト}あらば^シ祓^{ハラ}所^{トコロ}の大神^{オホノカミ}小^コ乞^ヒ申^シて^シ罪^{ツミ}料^{リョウ}を
出^デし^シ祓^{ハラ}清^{キヨ}めて^シ穢^{ケガレ}心^{ココロ}を去^ス棄^スて^シ常^{トコ}々^ト赤^{アカ}心^{ココロ}も^トて^シ仕^シ奉^{ホウ}ら^ズと^シ必^{カナラ}に
と^シ祀^ヒ皇^{ミコ}神^ノの御^ミ靈^リ分^{ワケ}加^カ賜^スを^シて^シ靈^リ德^{トク}を成^ス就^スは^ル事^{コト}譬^{タト}ふ^ルに
良^カ治^チは^シ名^ナ劍^{ケン}百^{ヒャク}鍊^{レン}ち^テ鍛^{タガ}成^スし陶^{ハニ}土^{ツクリ}の埴^{ハニ}を埴^{ハニ}し^テ磁^チ器^キは
化^{ツクリナ}成^スは^シの如^ニく^シ形^{カタ}を^シ加^カれ^シ自^ミ暴^{ボウ}自^ミ棄^スと^シて^シ我^ガも^ト才^{サイ}能^{ネイ}拙^{ツボナ}く^テ
い^ハに^シ勢^{セキ}む^シは^シとも^シ功^{コウ}成^スに事^{コト}を^シえ^シあ^ラじ^シや^シのみ^ミ謂^{イハ}ふ^ルに^シ憐^レ
む^シは^シ己^ニ小^コ妖^{ヨウ}魅^ミ小^コ犯^スされ^シた^シ不^{トモ}徒^{トモ}か^シを^シり^シ師^シ翁^ウは^シ成^スせ^シを
成^スす^ル成^スさ^シぬ^シを^シ成^スら^ズば^シを^シ成^スさ^シば^シと^シ棄^スる^ル人^ノは^シの

ふ^シは^シお^シ舌^{ゼツ}の人^ノも^シ人^ノか^シり^シ我^ガめ^シ人^ノ云^フ々^トや^シも^シ詠^ユき^シ或^シ儒^{ニョウ}者^{シヤ}さ^シ
す^シめ^シ人^ノだ^シの^シゆ^ニに^シた^シや^シと^シも^シせ^シじ^シ月^{ツキ}も^シ日^ヒも^シ空^{ソラ}小^コ光^{ミツ}の^シか^シを^シり^シ
形^{カタ}を^シ世^セも^シも^シ賦^{ヒツ}る^ル義^ギを^シ忘^{ワス}る^ルる^ルの^シら^ズば^シと^シぞ^シ。

門人 上野國 村上鎌太郎 校

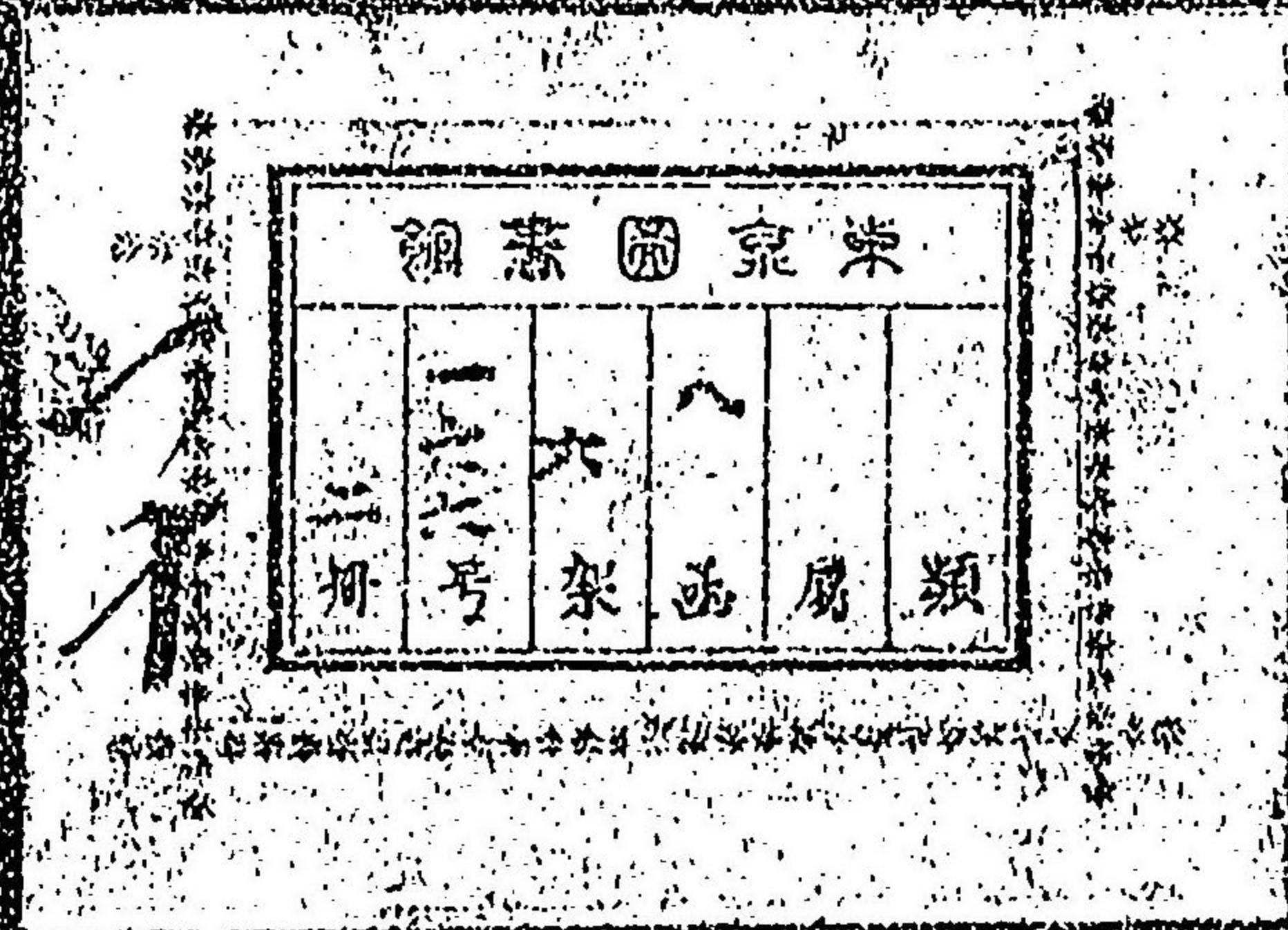
志斐語附錄上之卷終





8

166



014105-001-3

8-166

志斐語附録

矢野 玄道/著

1冊(上54丁)

M10

ABB-0370

